

大追物類鏡

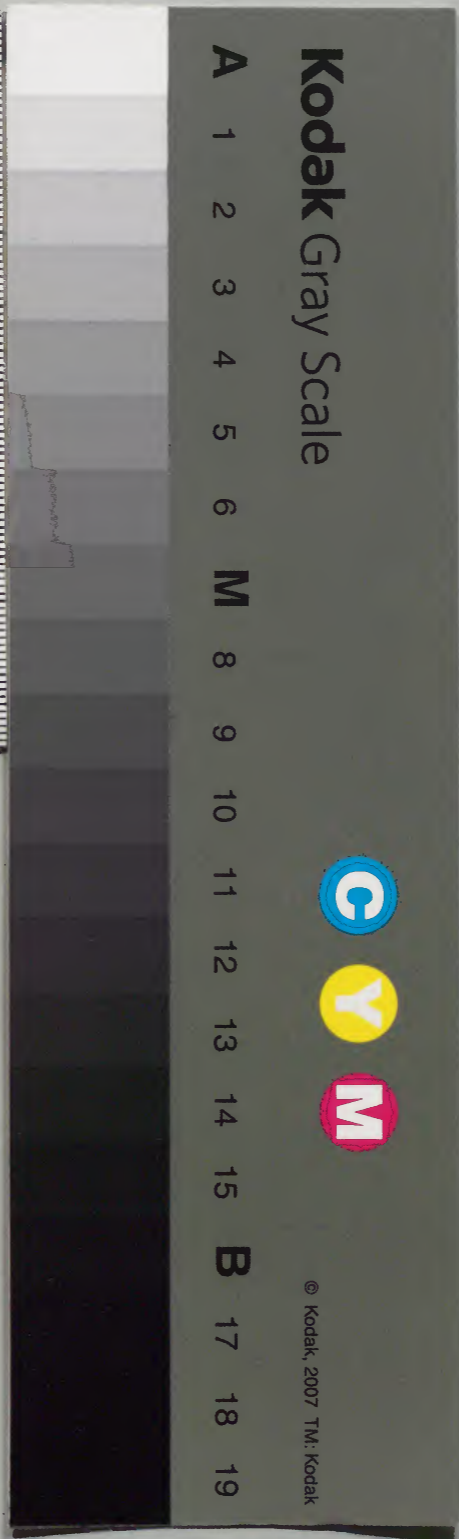
秘蔵

義

和書門	
二七九八三	類
七六函	
四冊	

内閣文庫	
二七九八三	和書
四冊	
五函	
一六架	

内閣文庫	
番號	和 27983
冊數	4 (2)
函號	154 246



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

大正物類考 卷二

大正物類考 卷二

明治十四年請求

○ 採見之部

惣論 二

秘抄云大正物は採見を賞す一採見を練於

時射子の採見を採見す一採見を採見す

四一採見は採見を採見す一採見を採見す

又云採見は採見の射子に於て射子にあつても採見

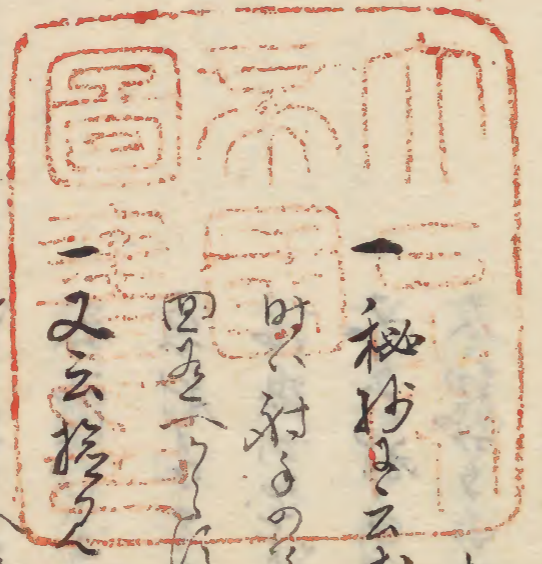
を採見す一又射子の採見を採見す一採見を採見す

の採見は採見の採見を採見す一採見を採見す

採見を採見す一採見を採見す一採見を採見す

他人を採見す一採見を採見す一採見を採見す

の採見を採見す一採見を採見す一採見を採見す



のこころも嘆つてゐるよ

一 持ちんまゝの縄の口よりさかす事、初縄のおよりお入
たる時ハ縄の遠目なをたきあして松をさかすお入
後ハいつくまもお入一 後ハ松をさかすお入してお入
事さかす又お入と後ハお入一 後ハ松をさかすお入の
後ハお入お入お入お入お入お入お入お入お入お入

一 又云 持ちん縄の口よりお入たる時、松の射も松をさかす
他一 松二松お入お入お入お入お入お入お入お入お入
後ハお入お入お入お入お入お入お入お入お入お入
後ハお入お入お入お入お入お入お入お入お入お入

一 又云 持ちん縄の口よりお入たる時、松の射も松をさかす
後ハお入お入お入お入お入お入お入お入お入お入
後ハお入お入お入お入お入お入お入お入お入お入

一 又云 持ちん縄の口よりお入たる時、松の射も松をさかす
後ハお入お入お入お入お入お入お入お入お入お入
後ハお入お入お入お入お入お入お入お入お入お入

一 又云 持ちん縄の口よりお入たる時、松の射も松をさかす
後ハお入お入お入お入お入お入お入お入お入お入
後ハお入お入お入お入お入お入お入お入お入お入

一 又云 持ちん縄の口よりお入たる時、松の射も松をさかす
後ハお入お入お入お入お入お入お入お入お入お入
後ハお入お入お入お入お入お入お入お入お入お入

一 又云 持ちん縄の口よりお入たる時、松の射も松をさかす
後ハお入お入お入お入お入お入お入お入お入お入
後ハお入お入お入お入お入お入お入お入お入お入

換糸云射才皆地三六
指又松後申て先人共古
射才かとは字ををせれん
云いて鏡の内一山あり
換糸云換見鏡の内一お入
射才皆天をむ一しむ
太放代女まけ

様条云々ワロク文ナリ
折々ありて何れも
ナリヤ
同入るるに
引こめ

様条云々ワロク文ナリ
折々ありて何れも
ナリヤ
同入るるに
引こめ

折り
み
他
此
引

の如く振らうて大のきりねは居る

一 美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

このおうちね殺せんを目的の通程はありておと

ねておとこのをけりておとこのをけりておと

一 美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

一つへおとこのをけりておとこのをけりておと

このおとこのをけりておとこのをけりておと

とねりておとこのをけりておとこのをけりておと

一 美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

又云美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

又云美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

一 美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

又云美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

又云美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

又云美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

又云美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

一 美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

又云美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

又云美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

又云美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

又云美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

又云美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

又云美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

一 美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

又云美濃の云々の大あつた大のきりねは居る

右品位騎制之另也



圖一

檢見

→ → → → → → → → →

射身

圖一

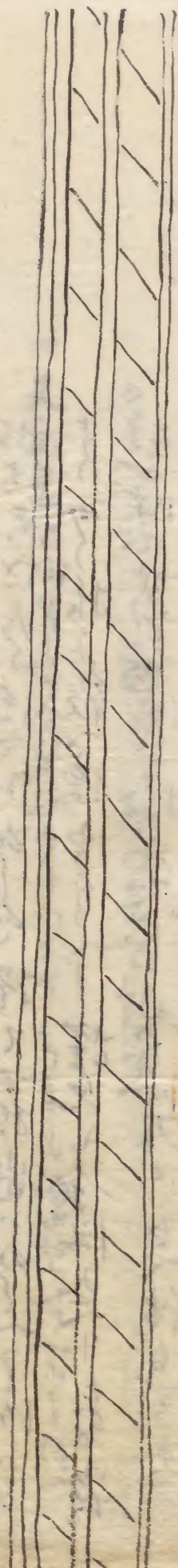
射身

→ → → → → → → →

檢見

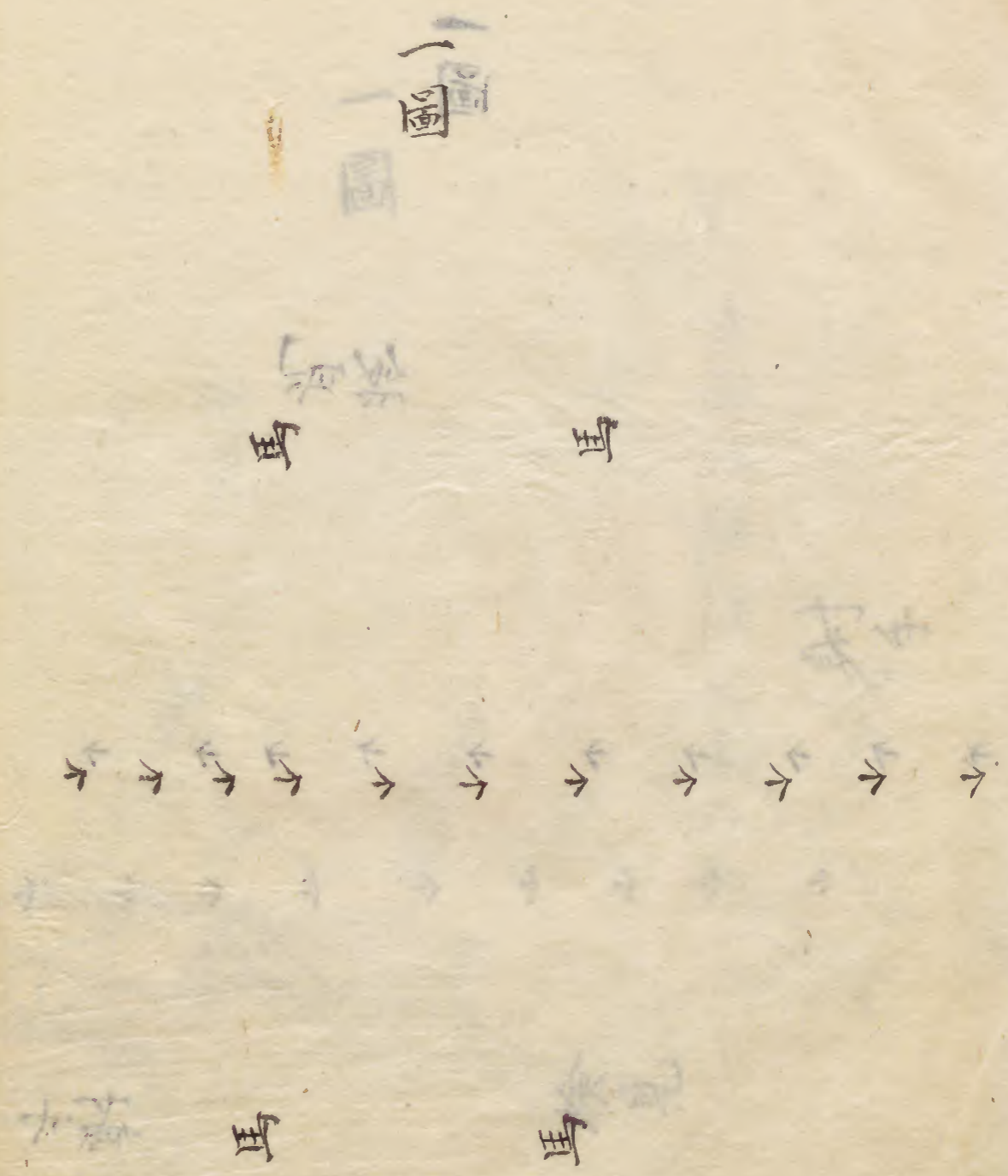
[Faint handwritten text in Japanese, likely bleed-through from the reverse side]

右三品日記之圖也



[Faint handwritten text in Japanese, likely bleed-through from the reverse side]

檢査



持家云云ニテ云々云々
持家云云申おちて其後
の事無きハ元を以て其後
みくろと云々云々云々
又村を天をすとの三ツ
ツト云々内北あり其後
くはつと村は二向村は
よくはつと云々云々云々
又其後云々云々云々
子ハ八幡と云々云々云々

持家云云何と云々云々
村の事云々云々云々
村の事云々云々云々
村の事云々云々云々
村の事云々云々云々
村の事云々云々云々
村の事云々云々云々
村の事云々云々云々

持家云云持家云云
持家云云持家云云
持家云云持家云云
持家云云持家云云
持家云云持家云云
持家云云持家云云
持家云云持家云云
持家云云持家云云

一 持家云云云々の事にて二と云々云々
又心地よく村なる事云々云々
持家云云持家の事云々云々
持家云云云々の事云々云々
持家云云云々の事云々云々

一 持家云云云々の事にて二と云々云々
ハ其を以て持家の事云々云々
又ハ持家云々云々の事云々云々
一 持家云云云々の事にて二と云々云々
又持家云々云々の事云々云々
持家云々云々の事云々云々

一 持家云云云々の事にて二と云々云々
又持家云々云々の事云々云々
持家云々云々の事云々云々
持家云々云々の事云々云々
持家云々云々の事云々云々

一 持家云云云々の事にて二と云々云々
又持家云々云々の事云々云々
持家云々云々の事云々云々
持家云々云々の事云々云々
持家云々云々の事云々云々

一 持家云云云々の事にて二と云々云々
又持家云々云々の事云々云々
持家云々云々の事云々云々
持家云々云々の事云々云々
持家云々云々の事云々云々

一 持家云云云々の事にて二と云々云々
又持家云々云々の事云々云々
持家云々云々の事云々云々
持家云々云々の事云々云々
持家云々云々の事云々云々

持家云云云々の事にて二と云々云々

考へし

一又云その大はちとふとたつる矢を山とてしはける者す七
又矢数を計り入るるもあらずとみくも都る初心の
意に似るこたきつ時におく

一持名云持名に射も夫人亦射も山骨をおりふおろ
かいつつき射もあつ時ハをこし矢懸くともす
希て入るも之制のうきつこのこし

一又云持名はうち矢あつとむさくくははるへうらす
まの矢ハ沙はるすすもゆ吹の矢ハ大印のま

一志持名に云はるすすもゆ吹の矢ハ大印のま
すも志のまらすすもゆ吹の矢ハ大印のま
りて

一持名云持名に内射も射のまらすすもゆ吹の矢ハ大印のま
射ハおるすすもゆ吹の矢ハ大印のま

一又云志をみるきとす射も射のまらすすもゆ吹の矢ハ大印のま
する也射ハはる射も射のまらすすもゆ吹の矢ハ大印のま
以矢法おるすすもゆ吹の矢ハ大印のま
入るきりけのたの時におく射も射のま

一又云持名に云はるすすもゆ吹の矢ハ大印のま
射も射のまらすすもゆ吹の矢ハ大印のま

一持名云持名に云はるすすもゆ吹の矢ハ大印のま
射も射のまらすすもゆ吹の矢ハ大印のま

持名云持名に云はるすすもゆ吹の矢ハ大印のま
射も射のまらすすもゆ吹の矢ハ大印のま

持名云持名に云はるすすもゆ吹の矢ハ大印のま
射も射のまらすすもゆ吹の矢ハ大印のま

一又云捲るにまはり子の尻をさすしては捨す一と
 の志をみるまはりこと云けい射よ山捲るもおたす
 大相とまはり申さるやまはりへはたすへま
 一志後よ云捲るまを射はさるとてみるふまはり
 七世のまはり

大相はし事一 中

一明後よ云捲る矢を又外に矢を射の矢うと矢よ
 り小い矢をとりあつてきてまをすして捲見の力を
 射よ射捲る申さる矢をうとて射の矢を入るま
 四の矢の捲射に射の矢にまを射の射はまはり四の矢
 を射る矢一

捲る云云はまはりのまはり
 又何れもあつてい
 一射よ射まはりま
 りまはり

一捲るよ云捲る矢を又外に矢を射の矢うと矢を
 矢を射るまはりまはりまはりまはりまはりまはりまはり
 是の内は矢のまはりまはりまはりまはりまはりまはり
 外の矢はまはりまはりまはりまはりまはりまはりまはり
 一又云捲るまはりまはりまはりまはりまはりまはり
 おまはりまはりまはりまはりまはりまはりまはり
 矢のまはりまはりまはりまはりまはりまはりまはり
 ろく又内は矢のまはりまはりまはりまはりまはり
 山をまはりまはりまはりまはりまはりまはりまはり
 射の矢入るまはりまはりまはりまはりまはりまはり
 射のまはりまはりまはりまはりまはりまはりまはり
 目せまはりまはりまはりまはりまはりまはりまはり

捲る云云はまはりのまはり
 又何れもあつてい
 一射よ射まはりま
 りまはり

云々ハハ射よの矢なる所をおよと必同を入ハ一是
ハ射よをばつてつるべし

一又云續よる言句の矢を射よハハと云を射よの
射よハハ言の矢をおよと射よハハと云を射よハハ

一又云續よる言句の矢をおよと射よハハと云を射よハハ
射よハハ言の矢をおよと射よハハと云を射よハハ

一又云續よる言句の矢をおよと射よハハと云を射よハハ
射よハハ言の矢をおよと射よハハと云を射よハハ

一又云續よる言句の矢をおよと射よハハと云を射よハハ
射よハハ言の矢をおよと射よハハと云を射よハハ

一又云續よる言句の矢をおよと射よハハと云を射よハハ
射よハハ言の矢をおよと射よハハと云を射よハハ

一又云續よる言句の矢をおよと射よハハと云を射よハハ
射よハハ言の矢をおよと射よハハと云を射よハハ

一又云續よる言句の矢をおよと射よハハと云を射よハハ
射よハハ言の矢をおよと射よハハと云を射よハハ

一又云續よる言句の矢をおよと射よハハと云を射よハハ
射よハハ言の矢をおよと射よハハと云を射よハハ

一又云續よる言句の矢をおよと射よハハと云を射よハハ
射よハハ言の矢をおよと射よハハと云を射よハハ

一又云續よる言句の矢をおよと射よハハと云を射よハハ
射よハハ言の矢をおよと射よハハと云を射よハハ

一又云續よる言句の矢をおよと射よハハと云を射よハハ
射よハハ言の矢をおよと射よハハと云を射よハハ

一又云續よる言句の矢をおよと射よハハと云を射よハハ
射よハハ言の矢をおよと射よハハと云を射よハハ

矢ふる所と矢の行き来せむとむるふゆのあつた後たる矢
の准たる一

一又云押もちりて射るも矢我るの尾より射りて後
より後事ありき若くして後矢の行き来せむと
むる

一明後云大を射るも又云矢ふる所と矢の二ふる
とて引目所を射るも射るも射るも射るも射るも
射るも射るも射るも射るも射るも射るも射るも

一又云大の切又射るも射るも射るも射るも射るも
射るも射るも射るも射るも射るも射るも射るも射るも

一又云矢ふる所と矢の行き来せむとむるふゆのあつた後たる矢
の准たる一

一又云矢ふる所と矢の行き来せむとむるふゆのあつた後たる矢
の准たる一

一又云矢ふる所と矢の行き来せむとむるふゆのあつた後たる矢
の准たる一

一又云矢ふる所と矢の行き来せむとむるふゆのあつた後たる矢
の准たる一

一又云矢ふる所と矢の行き来せむとむるふゆのあつた後たる矢
の准たる一

一又云矢ふる所と矢の行き来せむとむるふゆのあつた後たる矢
の准たる一

一又云矢ふる所と矢の行き来せむとむるふゆのあつた後たる矢
の准たる一

一 擧ぐるべきときと射るにて大矢の下ふつとく時若く
一 此引目もも能くさうりよる後身をまきてはきたる大
二 大矢小矢のちかき候處を能くあつて射るにいか
まはるや夫なるや又大矢小矢をきぬはまじ
ふとまじくさうりよる能くさうりよるにたるまじ
て書る

一 又云むよる大のつとくさうりよるにまじり
或は此ちさうりよる目の方にてはまじりて
一 擧ぐるにたる人の能くさうりよるにまじりて
大のちかき候處を能くさうりよるにたるまじ
るにたる

一 法を云むよる大のつとくさうりよるにまじり
一 ちかき候處を能くさうりよるにたるまじ
大へは能くさうりよるにまじりて射るに
はさうりよるにたるにまじりて射るに
法を射るにたるにまじりて射るに
一 大矢よるにたるにまじりて射るに
てさうりよるにたるにまじりて射るに
一 ちかき候處を能くさうりよるにたるまじ
さうりよるにたるにまじりて射るに

一 法を云むよる大のつとくさうりよるにまじり
一 ちかき候處を能くさうりよるにたるまじ
大へは能くさうりよるにまじりて射るに
はさうりよるにたるにまじりて射るに
法を射るにたるにまじりて射るに
一 大矢よるにたるにまじりて射るに
てさうりよるにたるにまじりて射るに
一 ちかき候處を能くさうりよるにたるまじ
さうりよるにたるにまじりて射るに

うなる日之末夫のつるの尾よりあまのたつハ業にア
又こかたる後身ありてちやうとあるまゝのいで陸引目
の方かもあるハ哉とつ矢りてあるハ
一又云夫はあつてつる大のつる矢を後さるに光さく
りのあまのつる後身ありておのつる後さるハ哉とつ矢に
あつてつるつるのあまのつるつるハ若たつとたのあ
たつるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
たるつるつる
一又信と云はつる小流と云はつるのさつるつるつるつる
流と云はつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
信とつるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
信とつるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

信とつるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

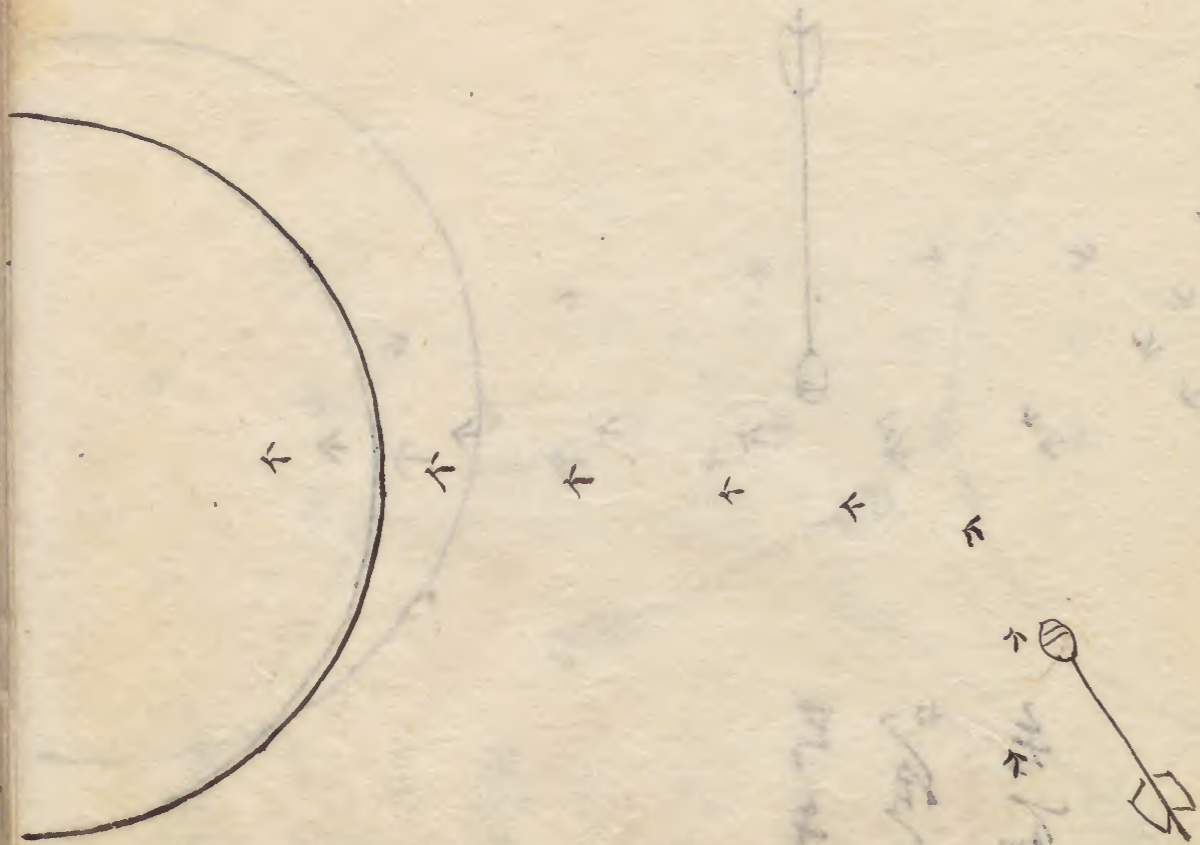
一 摺糸と云外に結糸ありとててひつふとててはつる矢いりも後よふ及
是非矢のつるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
あつるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
もたつるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
とつるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
一 摺糸と云はつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
あつてつるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
事也

天浦庄之事下

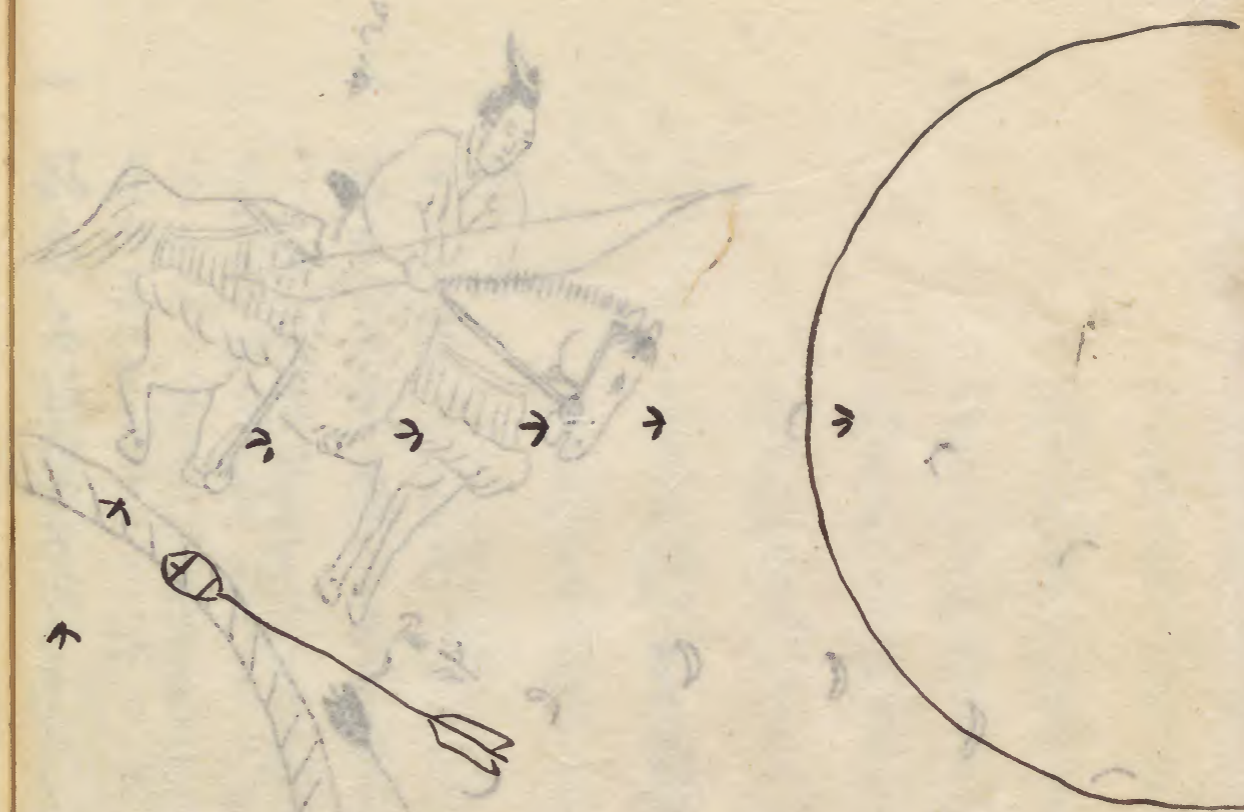


7

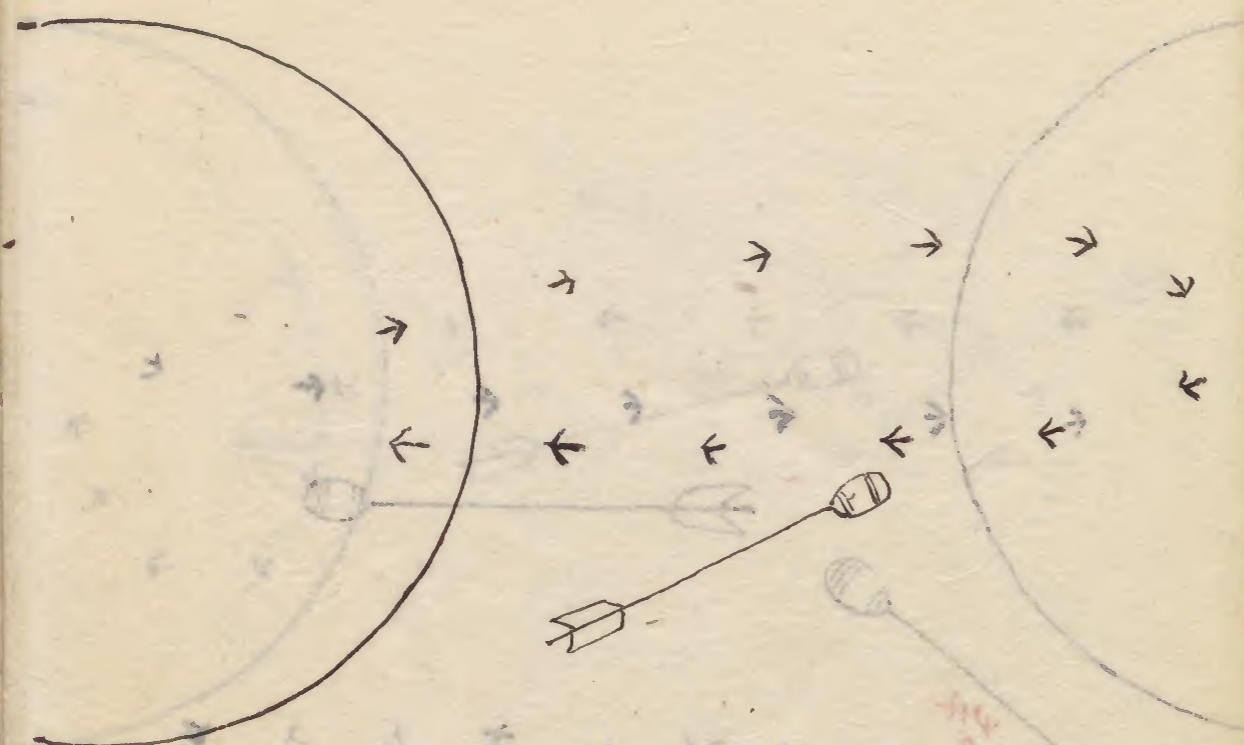
The right page of the book contains several columns of handwritten text in a cursive script, likely Japanese. The text is very faint and difficult to read. There are some small red markings on the page, including a small red '7' in the upper right corner. The paper shows signs of age and wear.



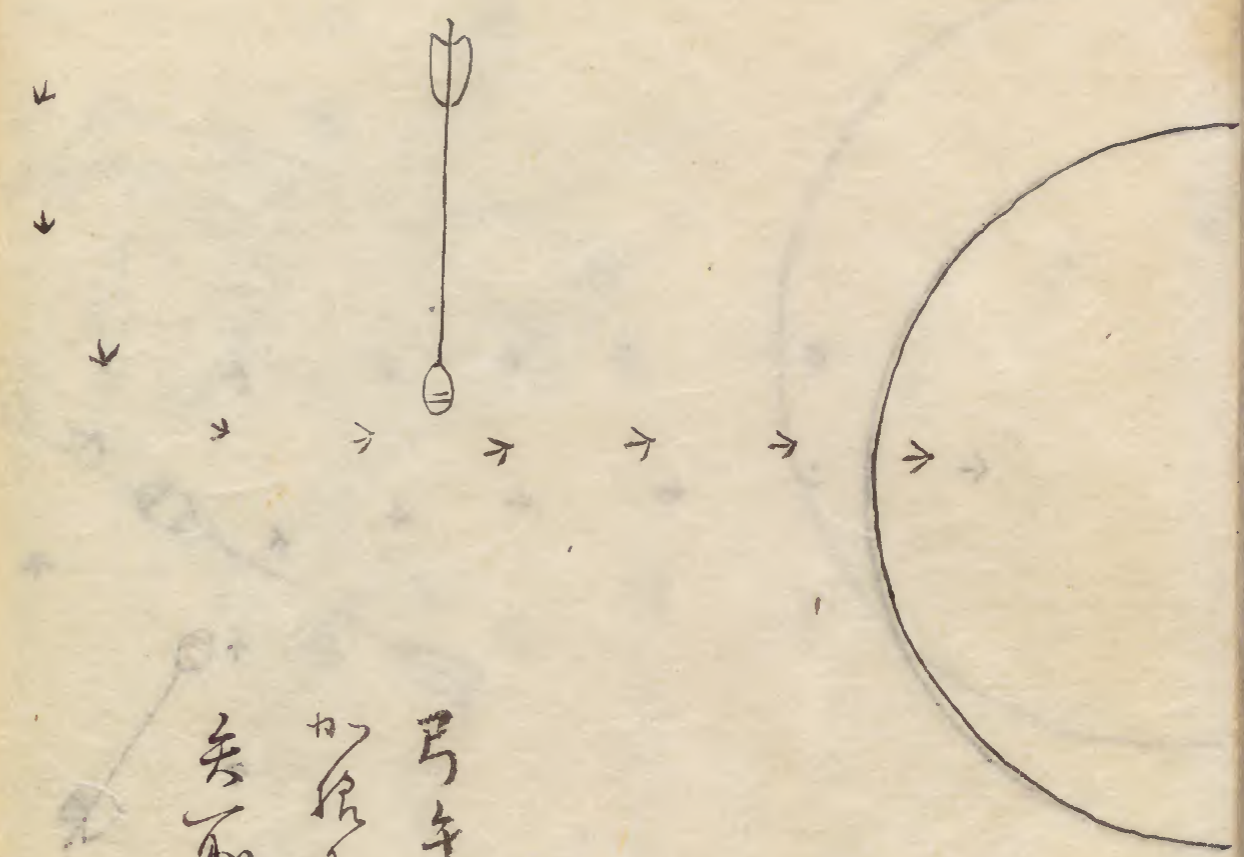
是ハ弓子あり射る
 矢ニ射て進み大カ
 又ウキキキキキ
 矢前を回して矢
 あり



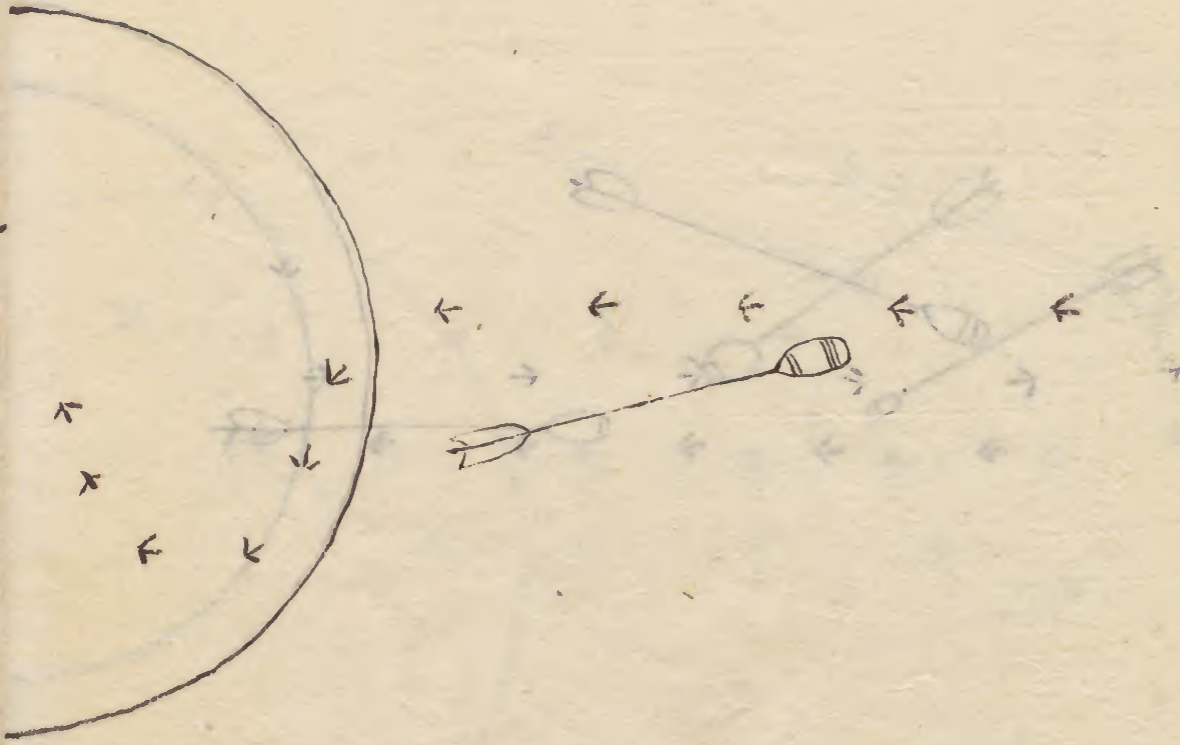
弓子ハ射る矢ニ
 射て進み大カ
 又ウキキキキキ
 矢前を回して矢
 あり



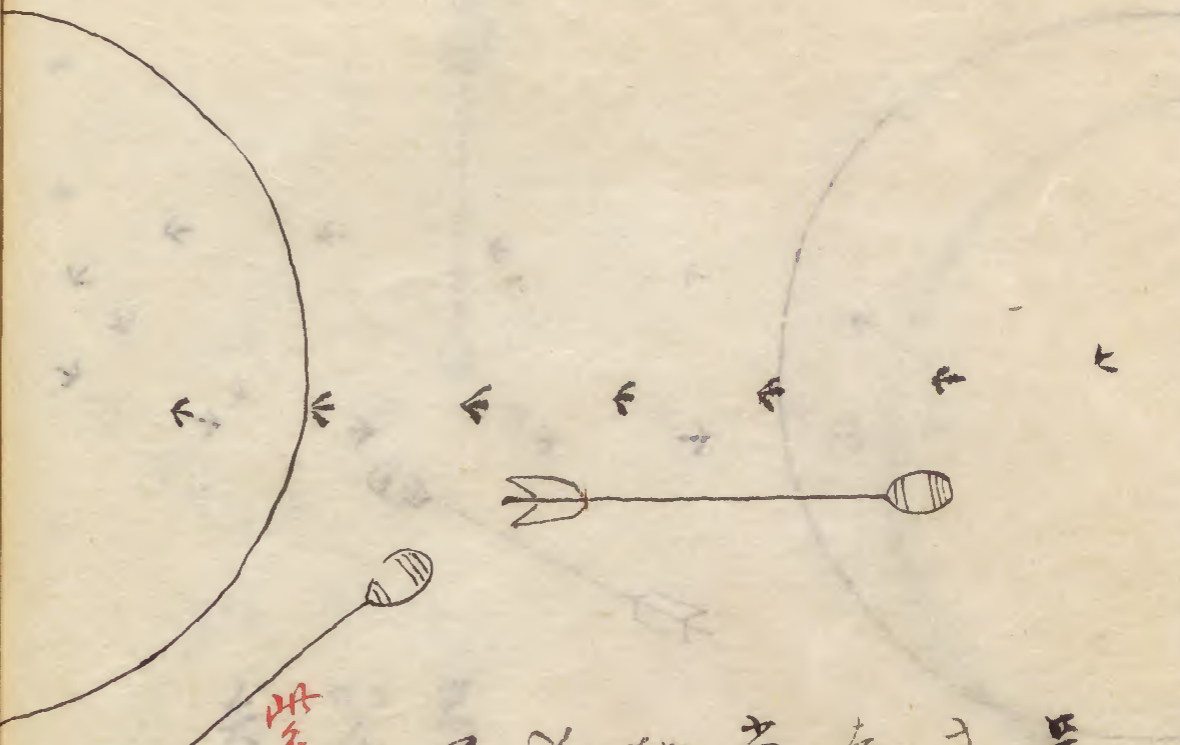
曰矢ありて後大縄を
 弓状の目より走を仰ぐ
 又縄へ入事ありて是又不
 若能疏を有る大の形未だ
 是をすふは及能矢之



弓を引て射る矢に射る處を大
 切に引て矢とのつらむをうき仰ぐハ
 矢を引て射る也

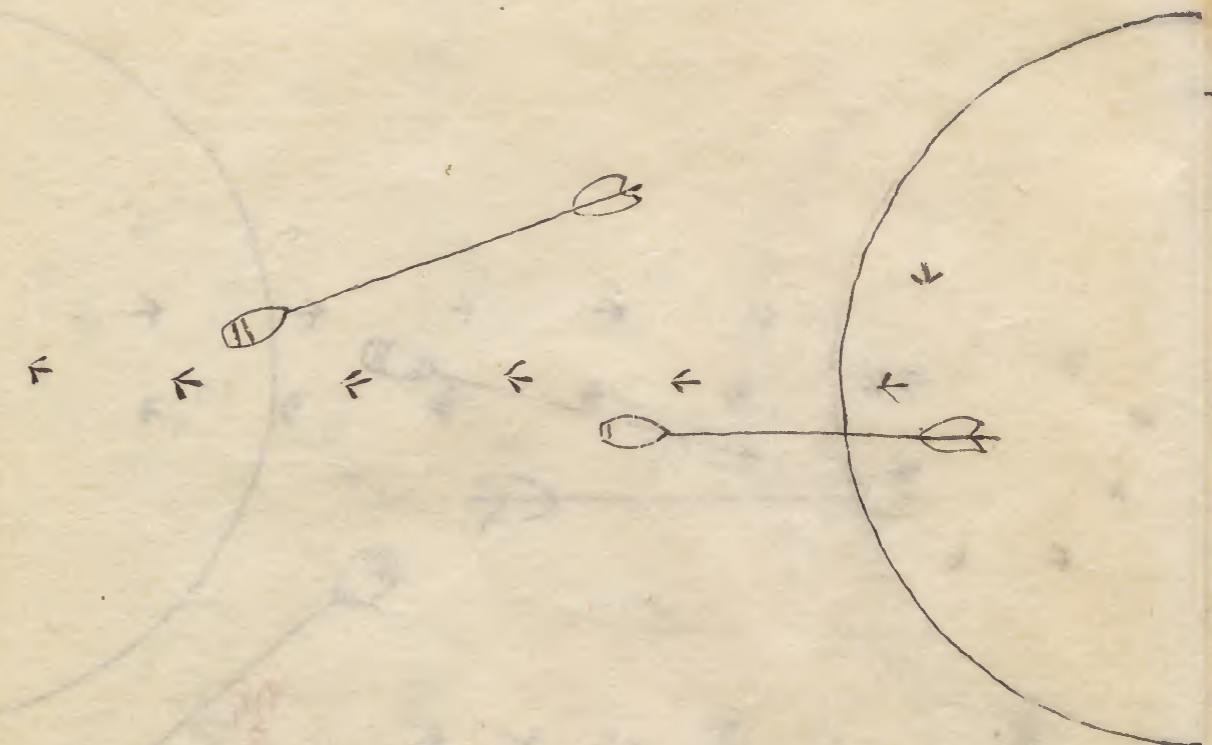


是ハ繩の内より射通し一ノ矢之
 此矢ありて後大ニやうし繩
 の内をききまをうて出ハ急せ文
 一ノ矢ありしとて
 四ノ矢ハ控ハ
 一ノ矢ありしとて
 一ノ矢ありしとて
 一ノ矢ありしとて
 一ノ矢ありしとて
 一ノ矢ありしとて
 一ノ矢ありしとて
 一ノ矢ありしとて
 一ノ矢ありしとて
 一ノ矢ありしとて

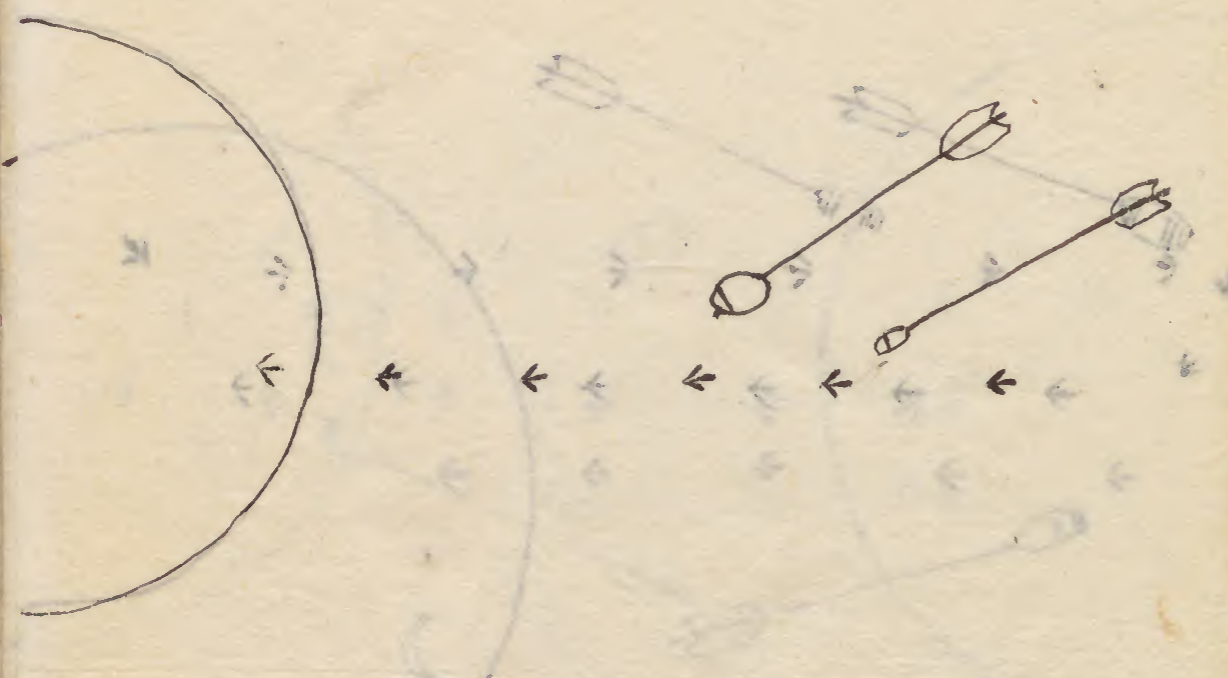


此矢を考ふ

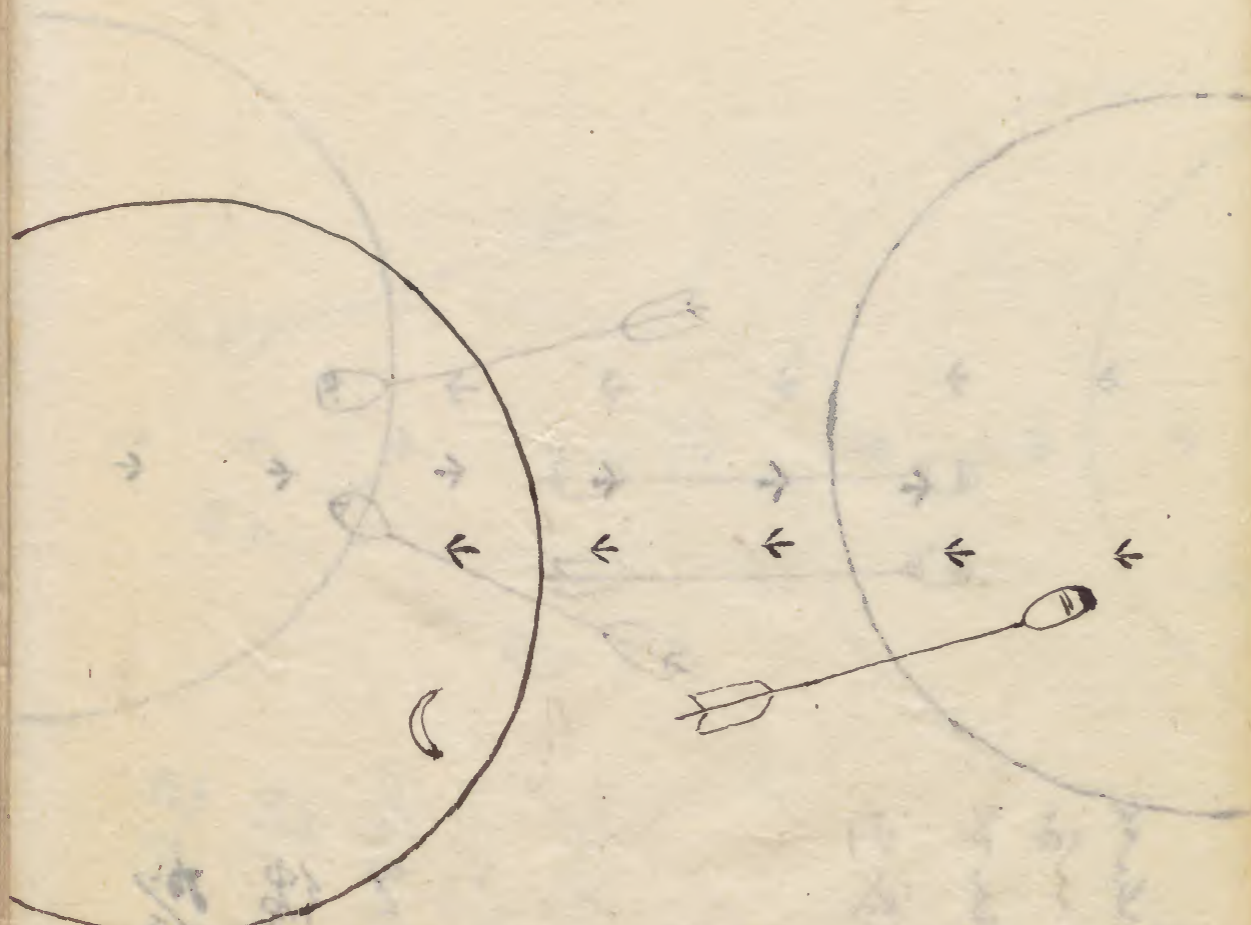
是ハ弓子の矢之成總道き矢を
 さくうし弓杖ハ船ヲ成控ハ繩
 きく流道ハ常流ハ流ハあり
 高家ハ控ハハを急ハ只繩道き
 成流ハ流ハ常流ハ人 繩道能
 必ハせあての沙汰ハ馬キハ繩道
 弓疏よりききに考ハハハハ



是ハ一きき迄さきし時の大に
 さうも 縄(走)をゆりやあはし
 矢をもはしつゝもなもあつゝ
 了射さうハつ度又在ふ矢を
 一とつゝ能矢あふハ是ハ流
 の矢を又入又縄ふさうと
 縄の内へ入さうともつゝあつゝ
 矢をもさうとつゝなうと
 及 縄の内へ入るは流
 是ハ一きき迄さきし時の大に

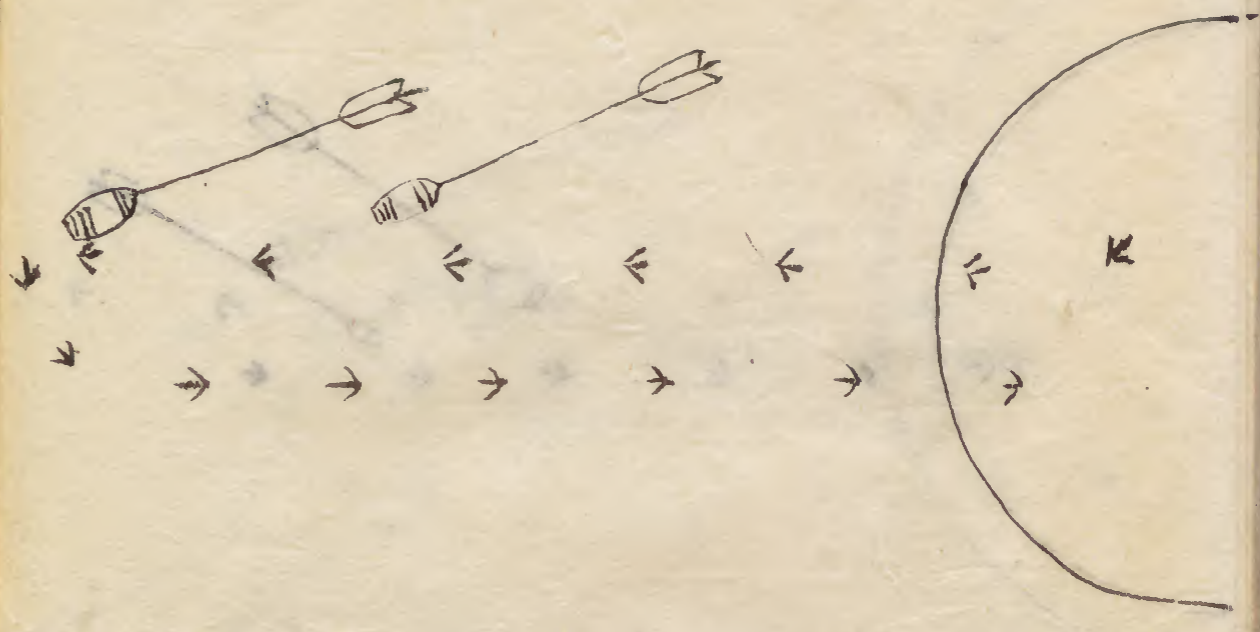


是ハ縄(走)をゆりやあはし
 矢をもはしつゝもなもあつゝ
 了射さうハつ度又在ふ矢を
 一とつゝ能矢あふハ是ハ流
 の矢を又入又縄ふさうと
 縄の内へ入さうともつゝあつゝ
 矢をもさうとつゝなうと
 及 縄の内へ入るは流
 是ハ一きき迄さきし時の大に



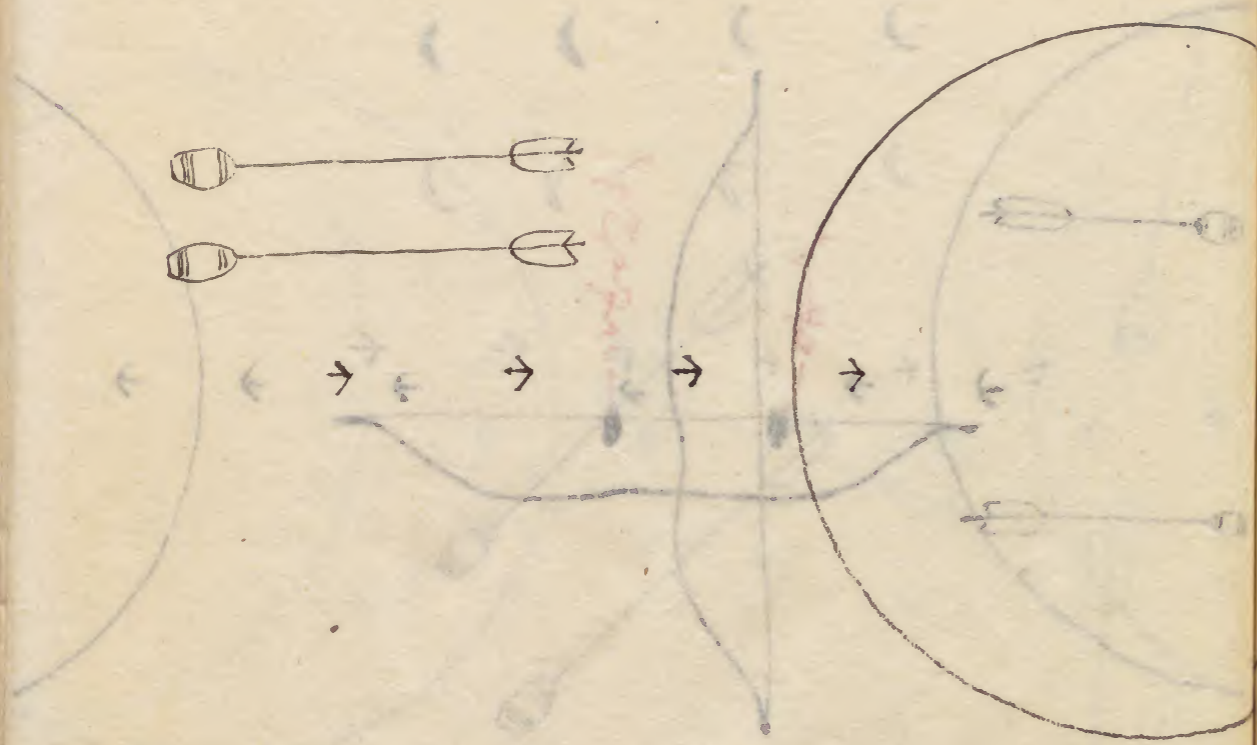
Handwritten notes in cursive script, partially obscured by a piece of paper or tape.

此矢とて射るべきを
 出さしむる所のを矢の
 由端とて見る力ありて



此の矢とて射るべきを
 出さしむる所のを矢の
 由端とて見る力ありて

是ハ繩より糸へおる犬又繩
 定まらば犬共矢射る方
 能いたと繩不射る方とも
 一とてしきその繩不射る
 方准繩する方と若流木の
 矢を射る下へけ矢不を換定
 向をおよよと回へ



此矢ハともヨ弓平の矢なり
 ぬじつううなの矢おろくはく
 ちんちんおろくはくはくはく
 ちんちんおろくはくはくはく
 ナ文字の少は中一鏡同
 ちんちんおろくはくはくはく
 ちんちんおろくはくはくはく
 ちんちんおろくはくはくはく
 ちんちんおろくはくはくはく

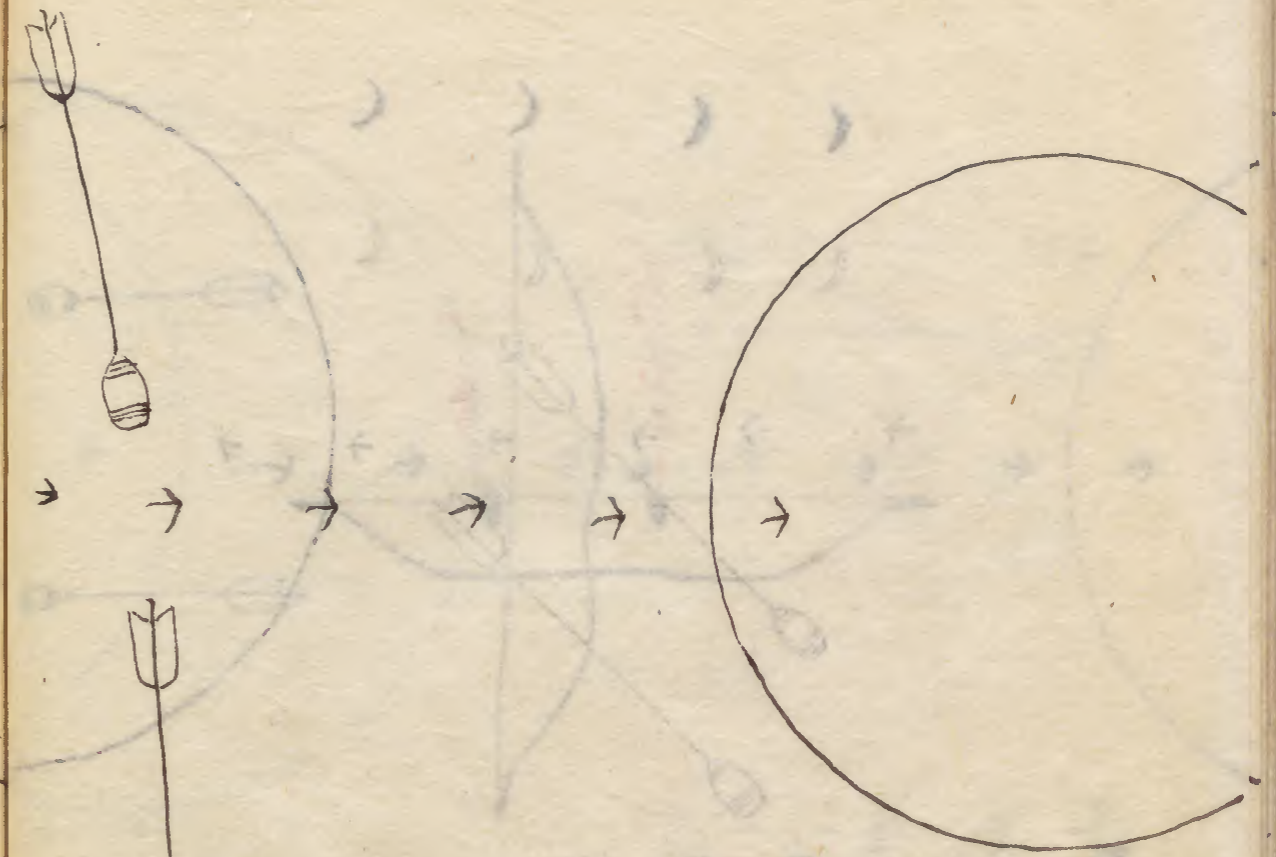


は矢ハ十字字の少法成
 鏡もさうも同法成
 肉も外も少法成
 ちんちんおろくはくはくはく
 ちんちんおろくはくはくはく
 ちんちんおろくはくはくはく
 ちんちんおろくはくはくはく
 ちんちんおろくはくはくはく
 ちんちんおろくはくはくはく
 ちんちんおろくはくはくはく
 ちんちんおろくはくはくはく

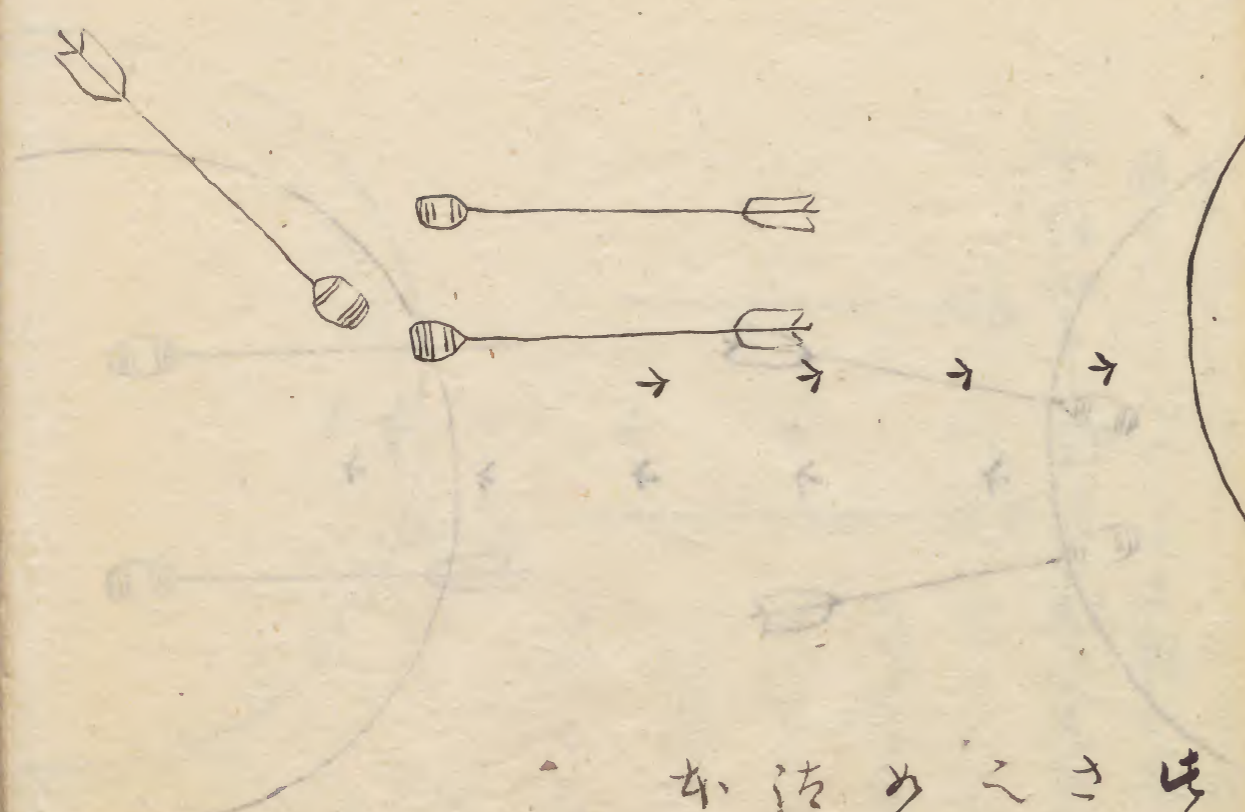


此の如くは
 光の進む
 方向を示す

此の如くは
 光の進む
 方向を示す
 同様の図
 の矢を
 逆にする

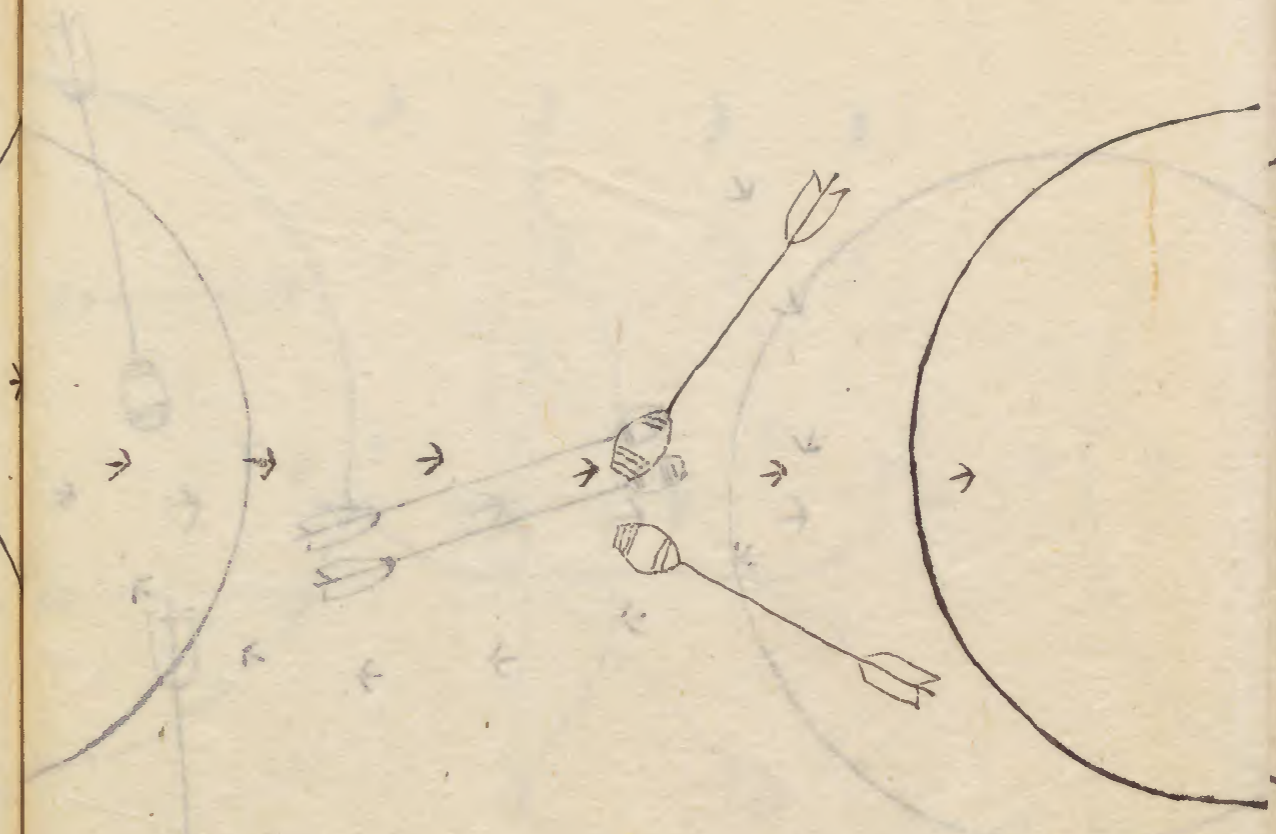


此の如くは
 十字字を
 示す
 乃時同
 矢を
 示す



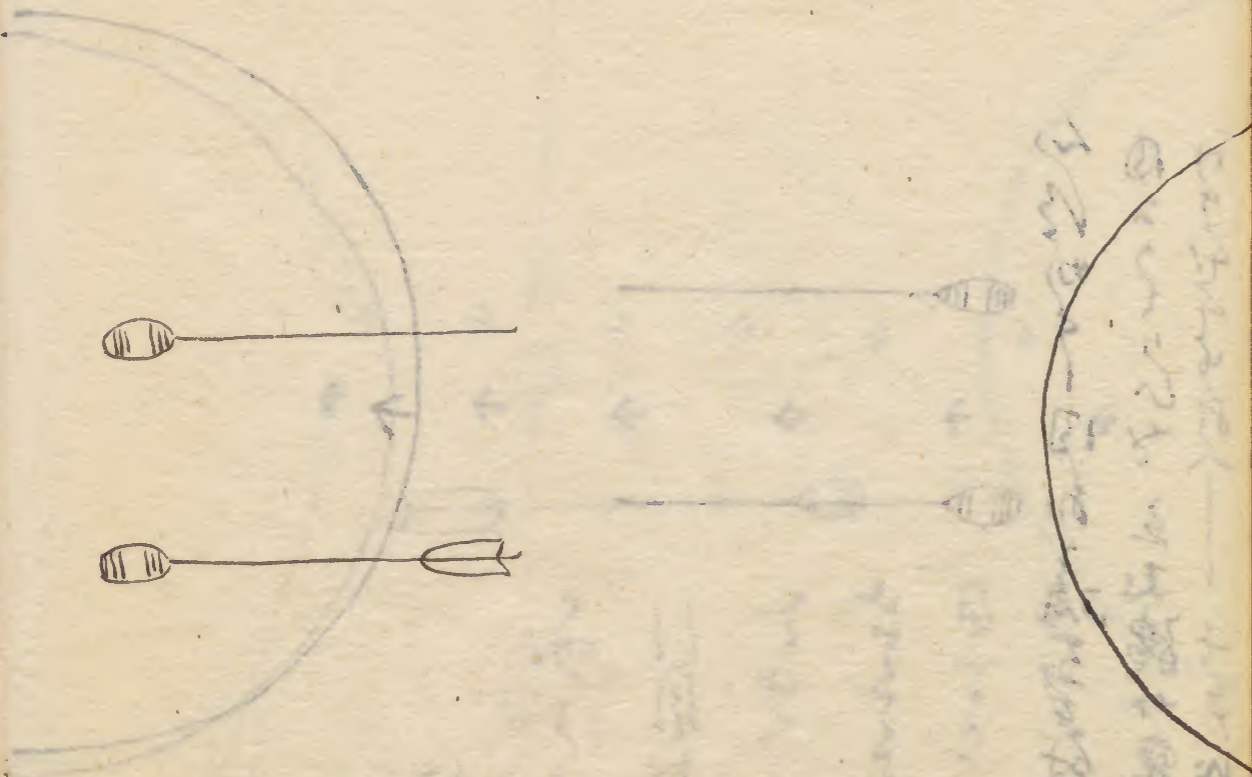
此の如くは、
 光の進むべき
 方向を示す
 矢印の集まり
 である。

光の進むべき
 方向を示す
 矢印の集まり

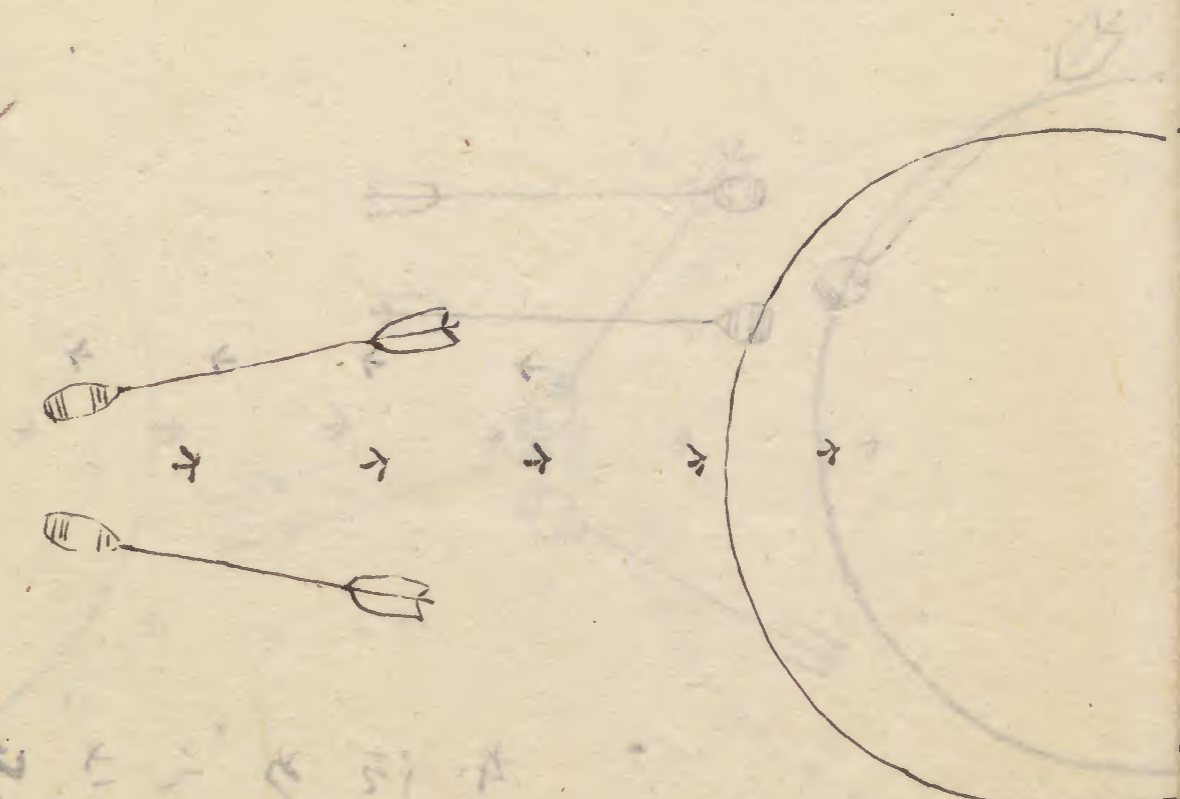


此の如くは、
 光の進むべき
 方向を示す
 矢印の集まり
 である。

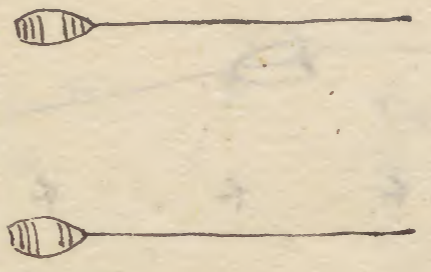
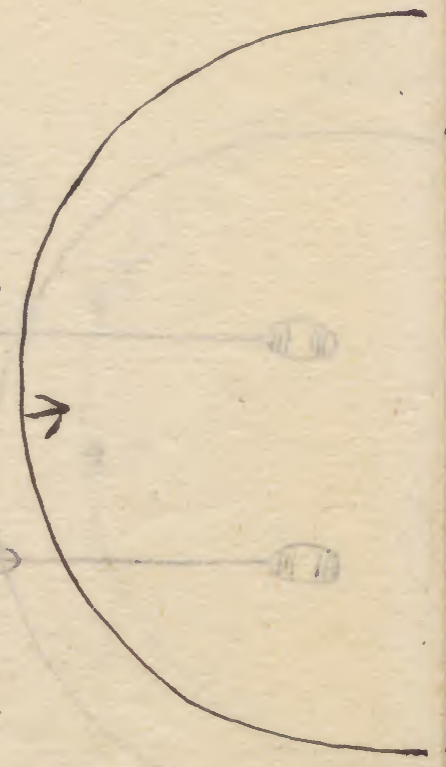
光の進むべき
 方向を示す
 矢印の集まり



是ハ鏡子ノ形状ノあり
 多ク文字ノ可打ノあり
 上ノ一ノ流一ノ五ノ別ノ上ノ
 法ノ様々ニある一ノ流一ノ
 是ノ時ハ沙石ノ及ビ此ノ
 形ノあり

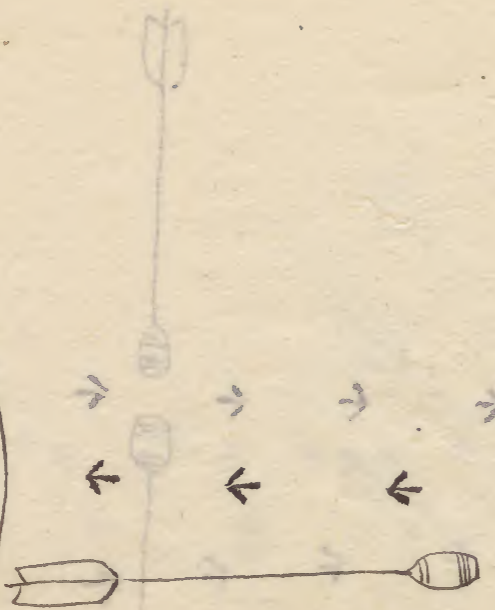
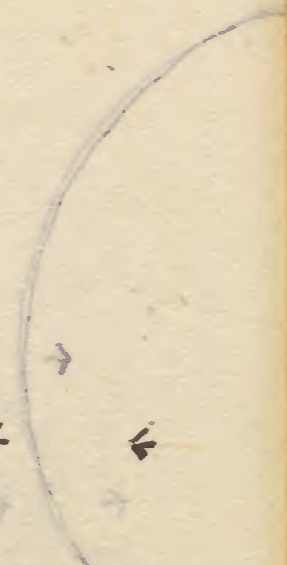


是ハ鏡子ノ形状ノあり
 多ク文字ノ可打ノあり
 上ノ一ノ流一ノ五ノ別ノ上ノ
 法ノ様々ニある一ノ流一ノ
 是ノ時ハ沙石ノ及ビ此ノ
 形ノあり



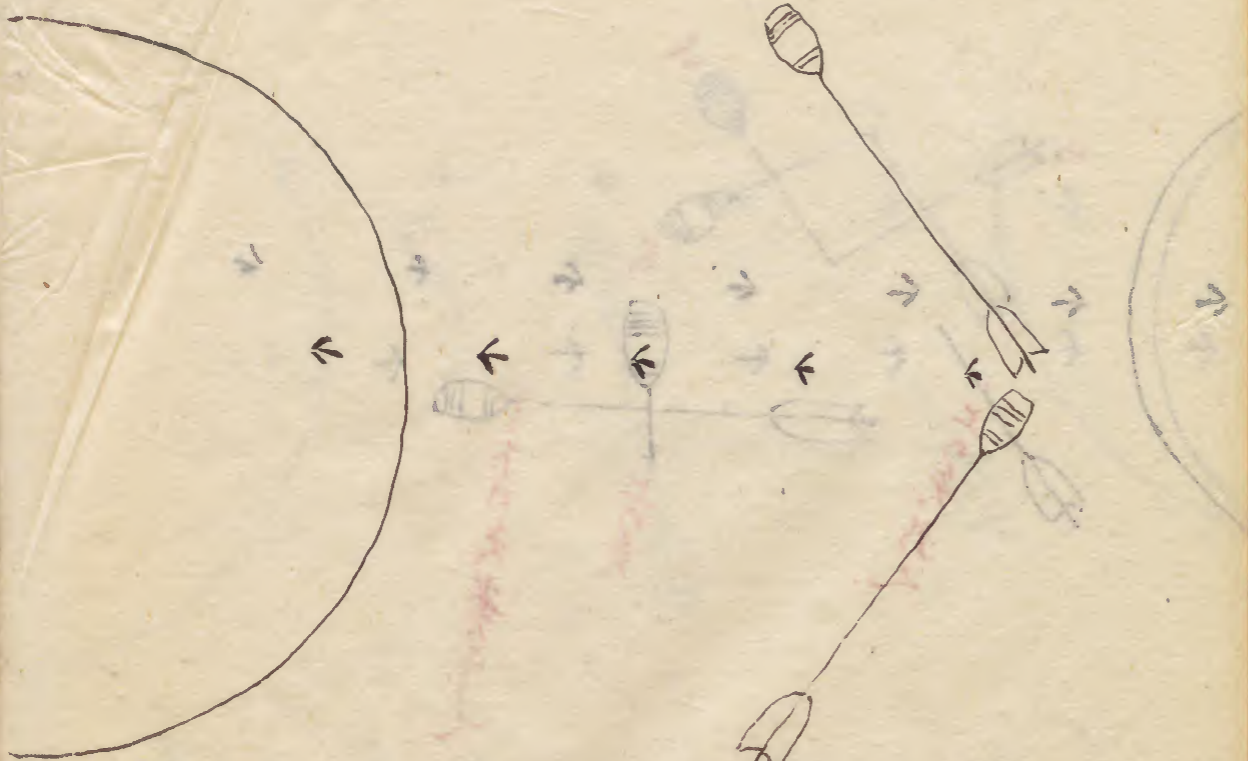
此の如くに破れしを
 二破れしを四よりかむを二
 して破れしを破れしを
 二の破れしを破れしを
 二の破れしを破れしを
 二の破れしを破れしを
 二の破れしを破れしを

此の如くに破れしを
 二破れしを四よりかむを二
 して破れしを破れしを
 二の破れしを破れしを
 二の破れしを破れしを
 二の破れしを破れしを
 二の破れしを破れしを



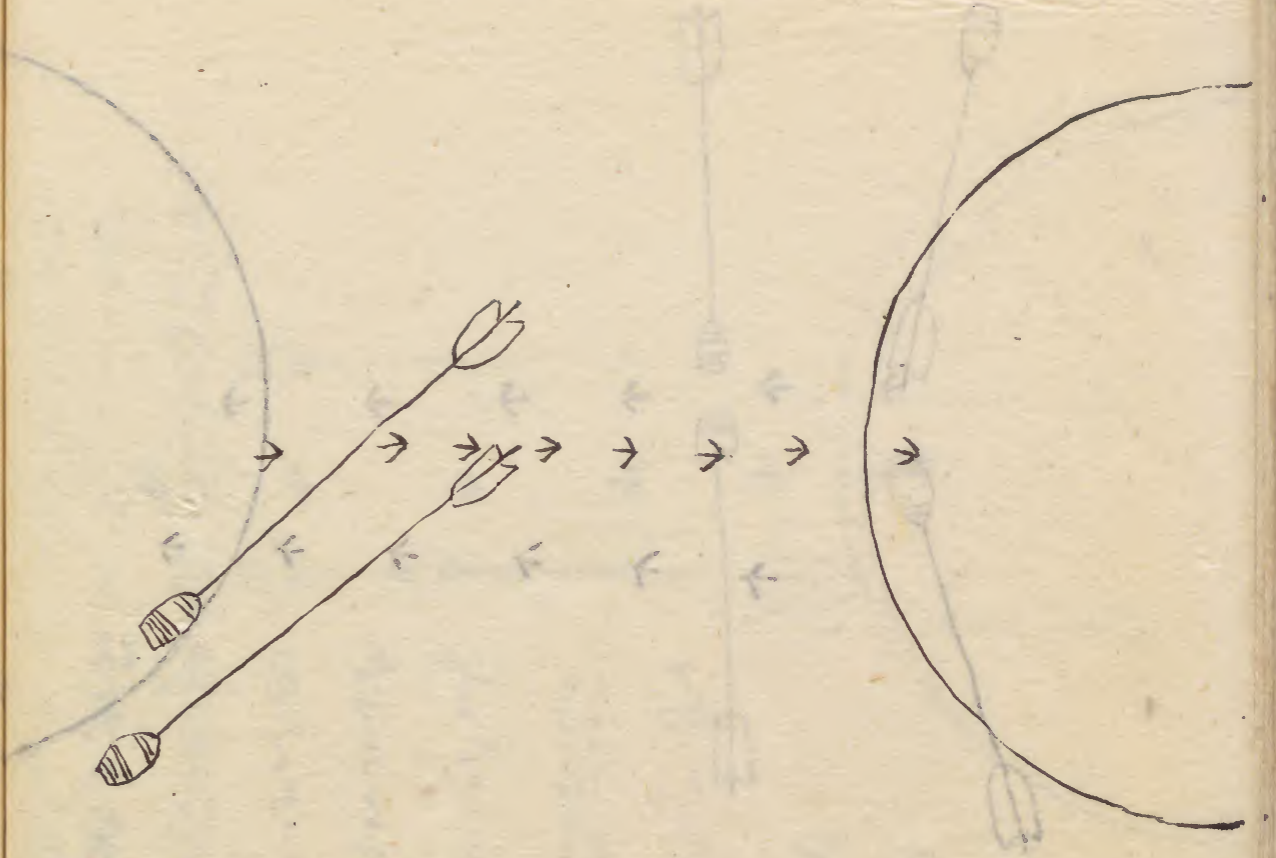
此の如くに破れしを
 二破れしを四よりかむを二
 して破れしを破れしを
 二の破れしを破れしを
 二の破れしを破れしを
 二の破れしを破れしを
 二の破れしを破れしを

此の如くに破れしを
 二破れしを四よりかむを二
 して破れしを破れしを
 二の破れしを破れしを
 二の破れしを破れしを
 二の破れしを破れしを
 二の破れしを破れしを



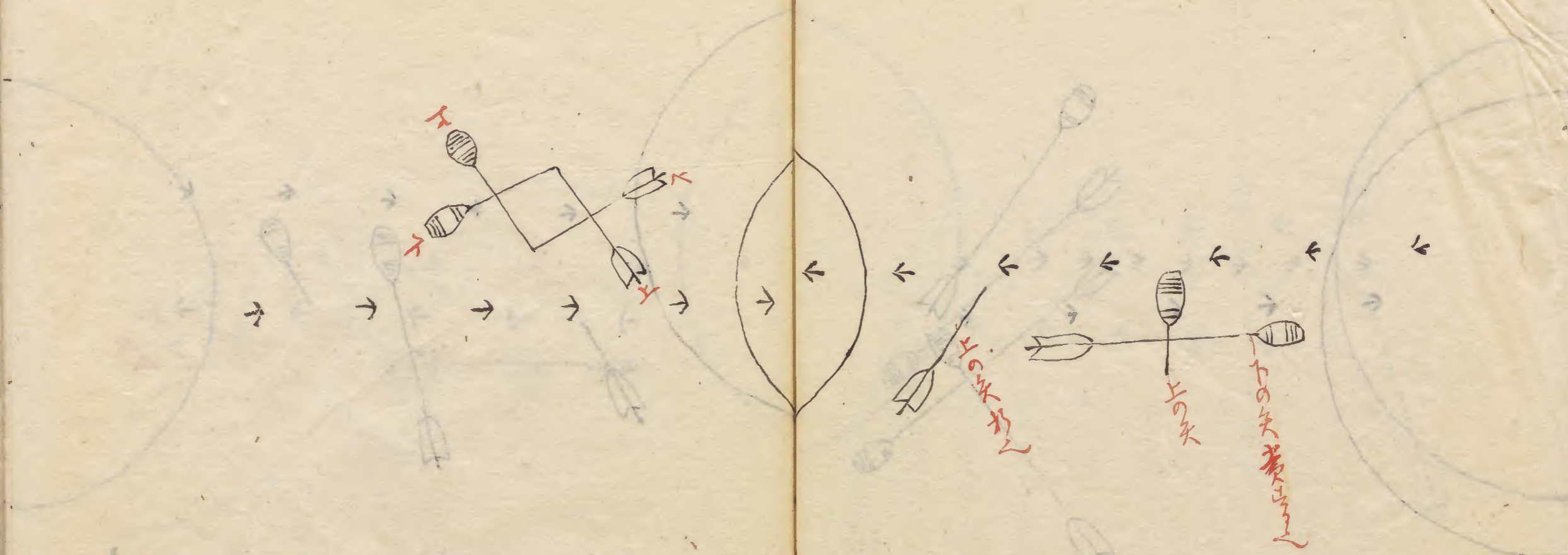
4 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

流子からなる矢のつらさ
 いろいろとまき矢をさしだして
 矢を定めて矢を本のめく
 本を横長とすべし
 一 流子つらさ
 十 矢のつらさ



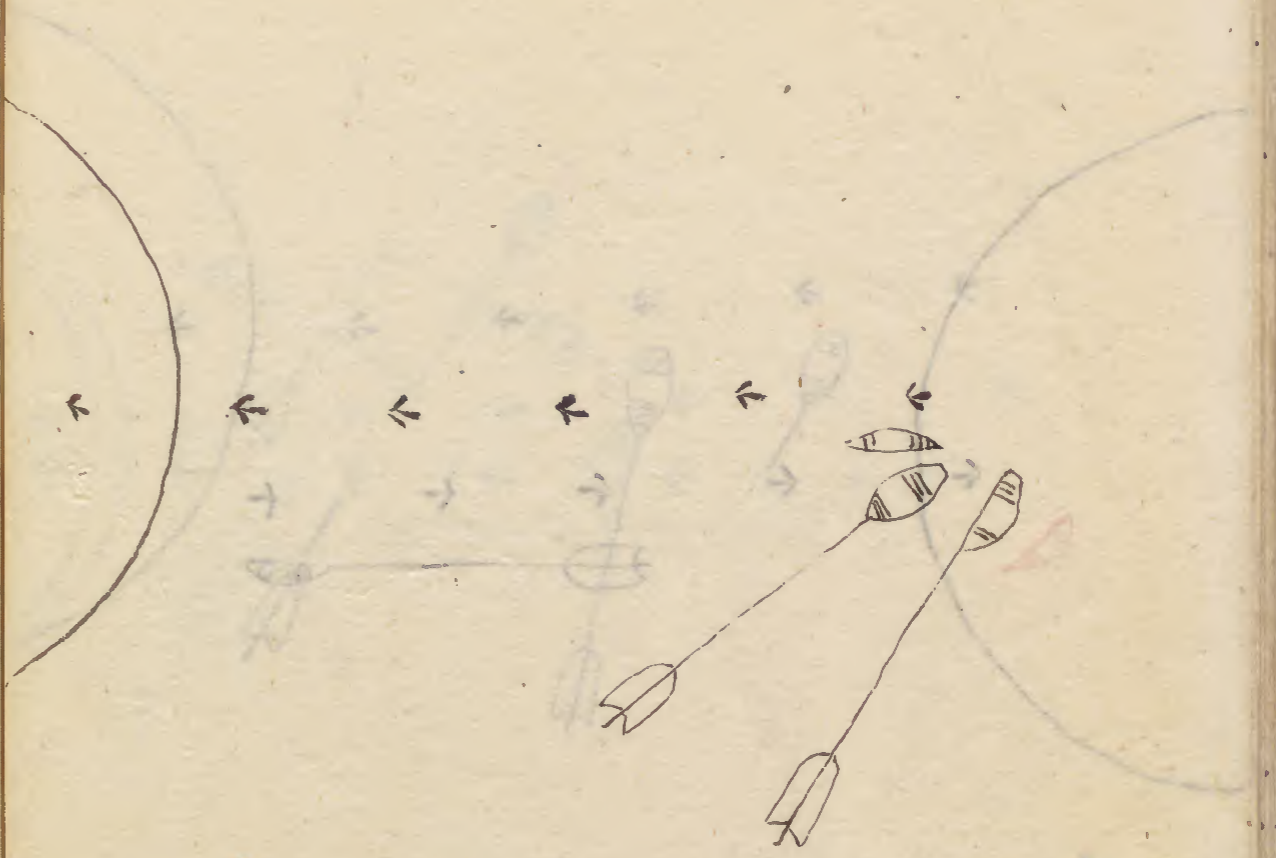
流子つらさ
 矢のつらさ
 本のつらさ
 横長のつらさ
 一 流子つらさ
 十 矢のつらさ

何れかの矢のめけともし
 流子つらさ
 横長のつらさ
 本のつらさ

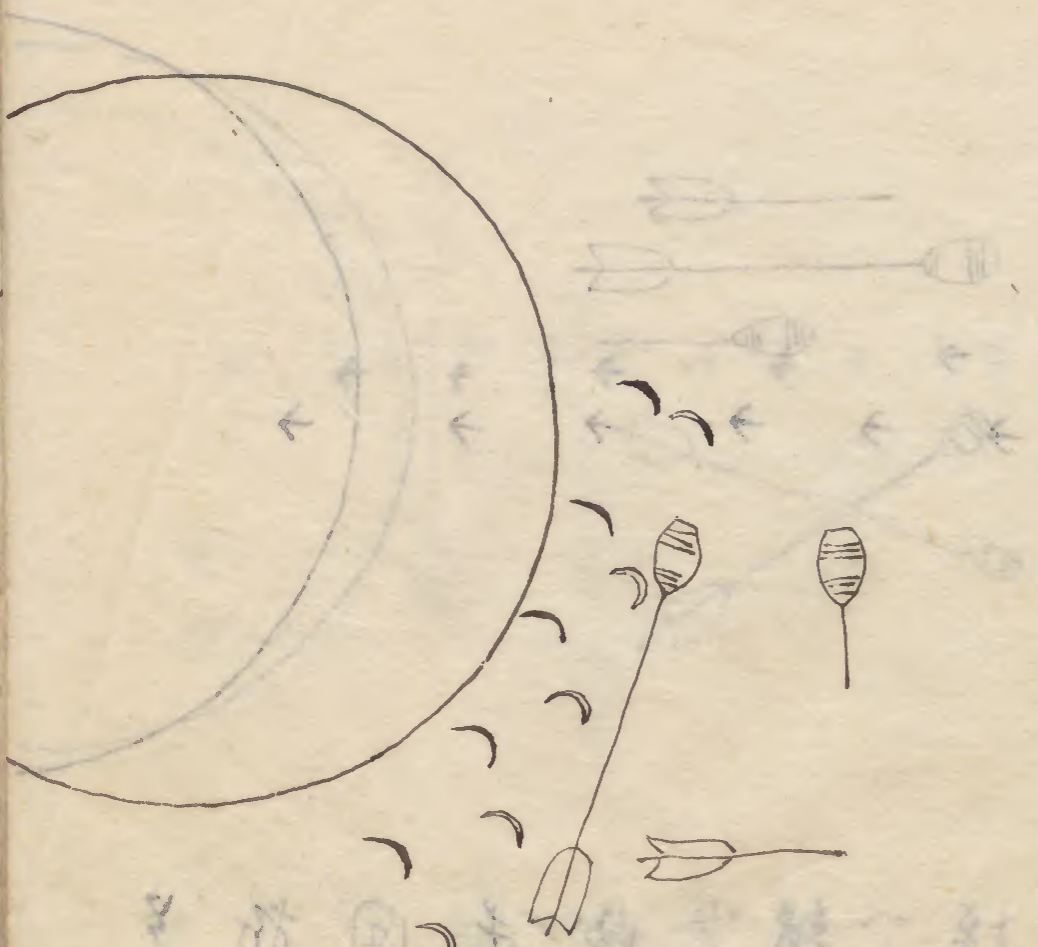


下の矢はまじりかたは不連続
 きりあがり 射といふ
 只矢束も射ふお前
 下の矢はさうさう
 下の矢はまじりかたは不連続
 きりあがり 射といふ
 只矢束も射ふお前
 下の矢はさうさう

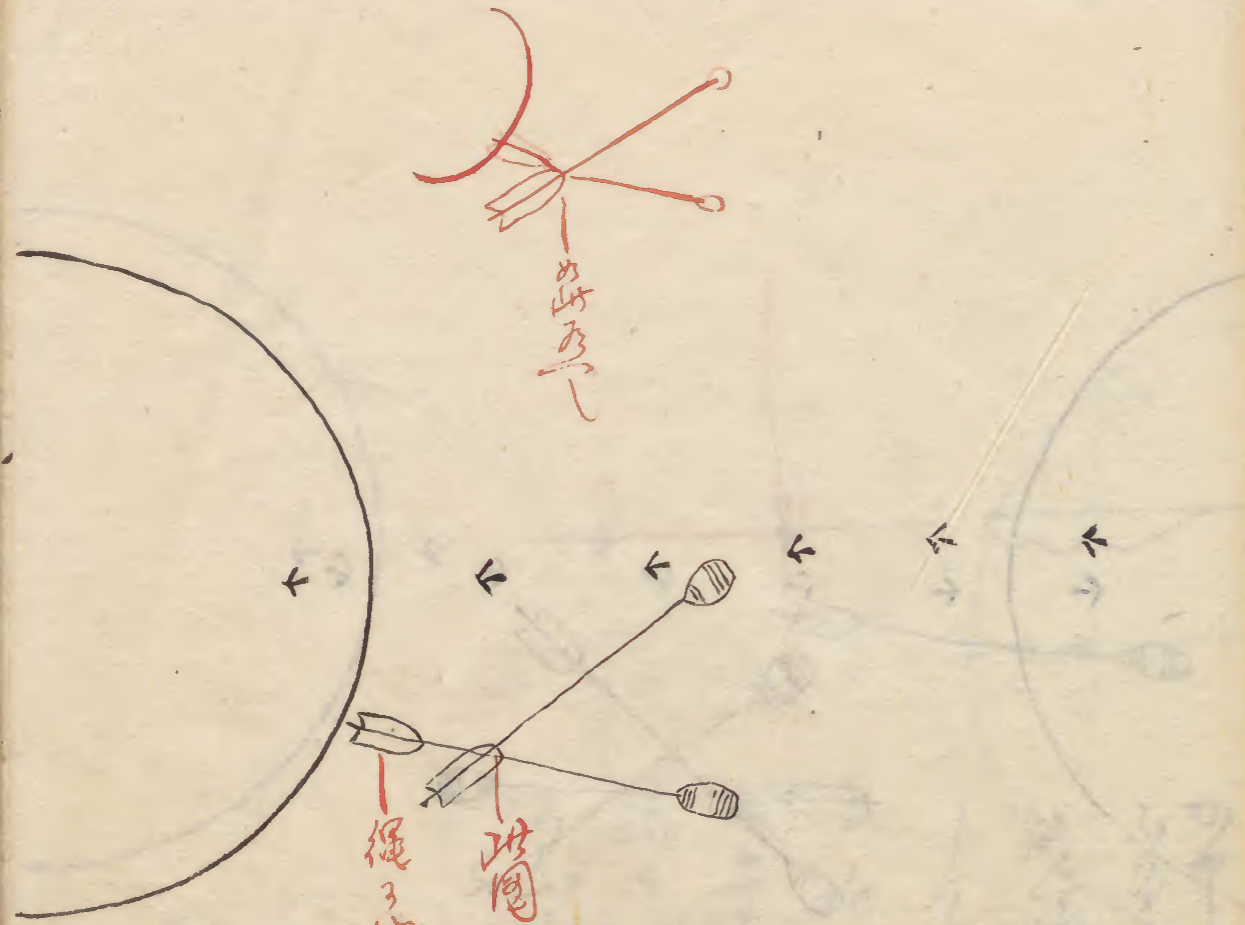
上の矢はまじりかたは不連続
 きりあがり 射といふ
 只矢束も射ふお前
 下の矢はさうさう



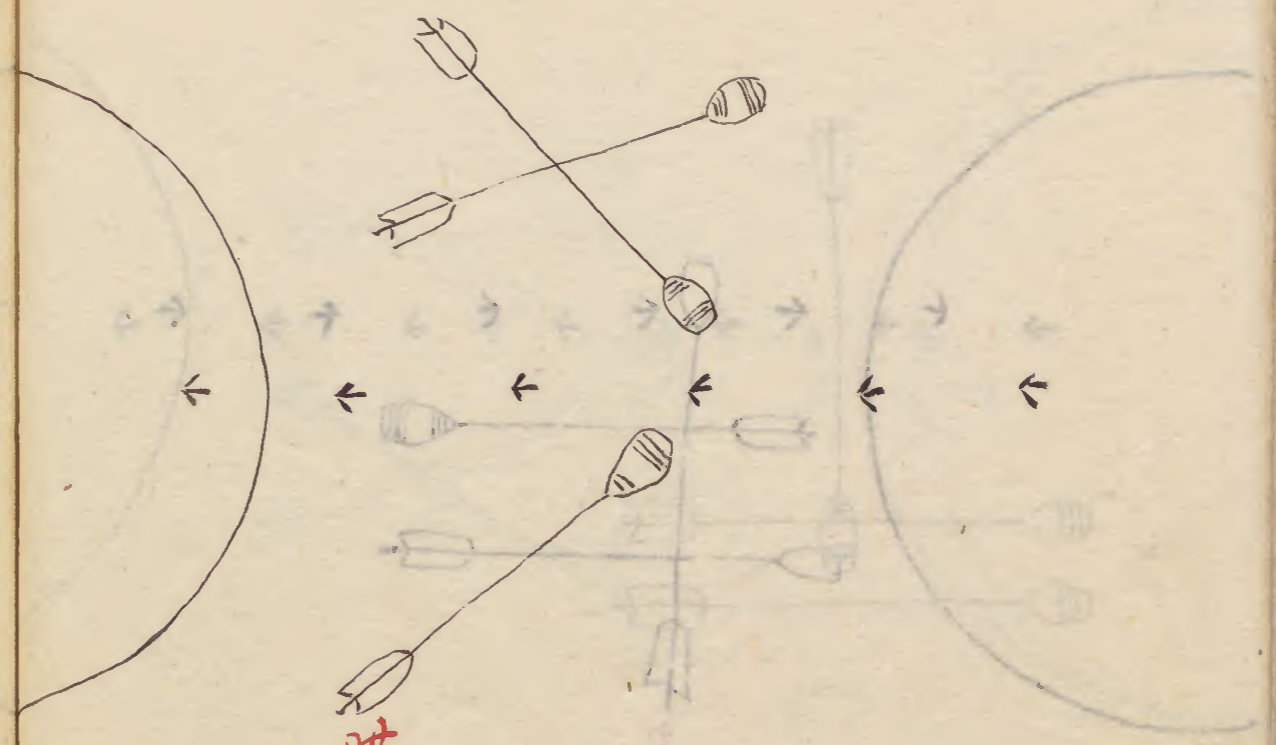
此所の矢引目弓水と内
 乃矢と同能細筆一を个
 其射引目弓水と内
 矢と十文字の射法を个
 射法を个に目弓水と
 射法を个に目弓水と
 射法を个に目弓水と
 射法を个に目弓水と
 射法を个に目弓水と



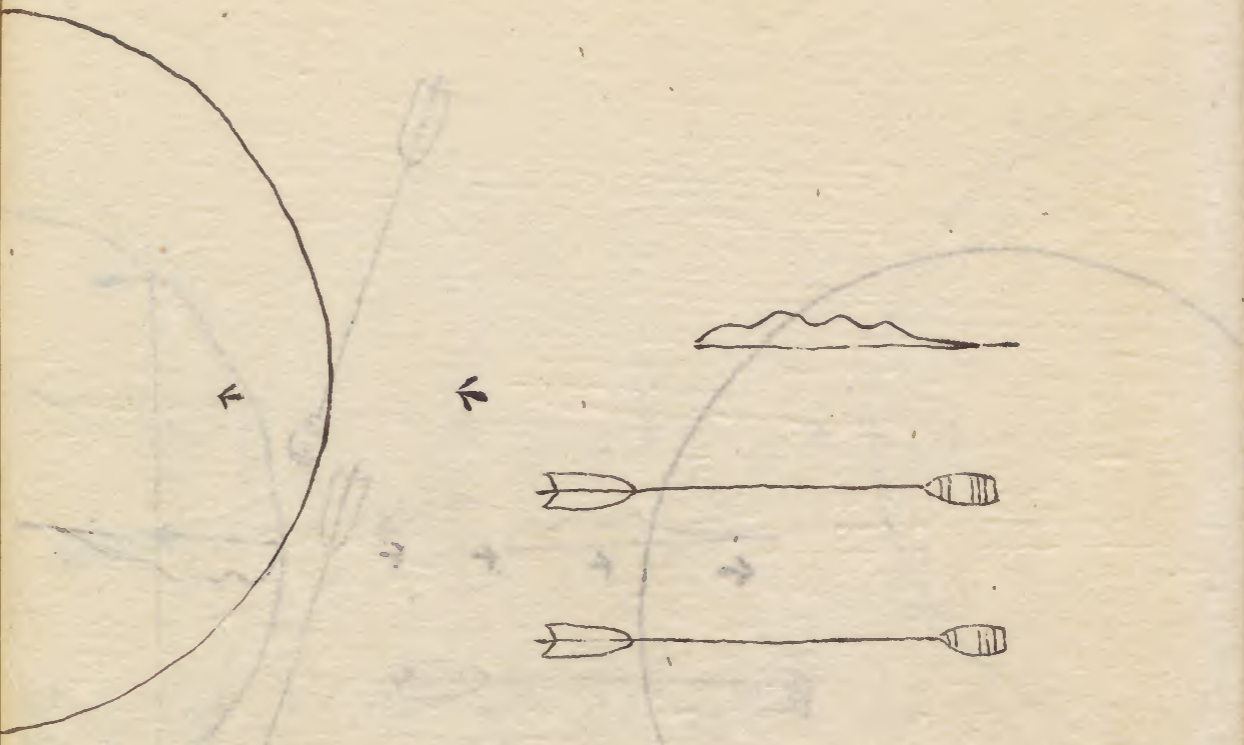
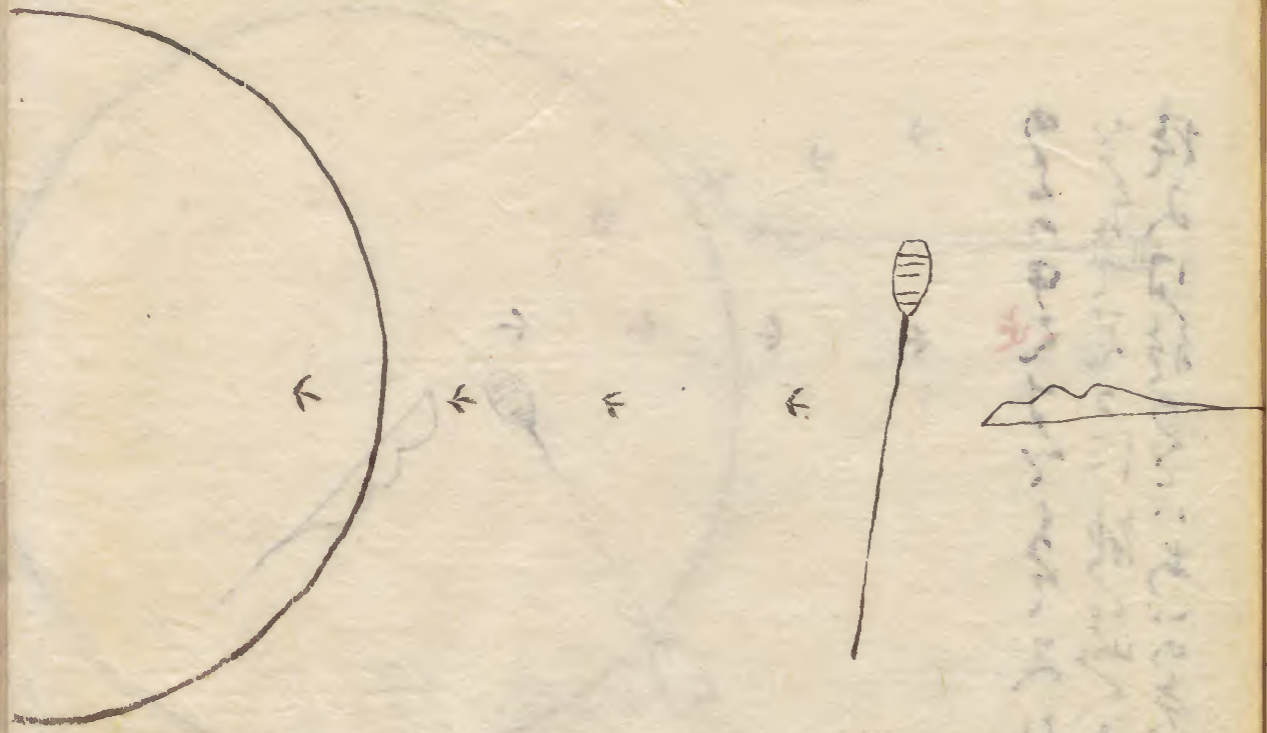
加射
 多射射て疎も疎も同
 色も出射も多し
 此矢を長き射法同
 之目も射て小多し
 射法を个に目弓水と
 射法を个に目弓水と
 射法を个に目弓水と
 射法を个に目弓水と
 射法を个に目弓水と



此の図は、
 矢のつらたを
 保つて射るに
 用ひたる也。
 此の図は、
 矢のつらたを
 保つて射るに
 用ひたる也。

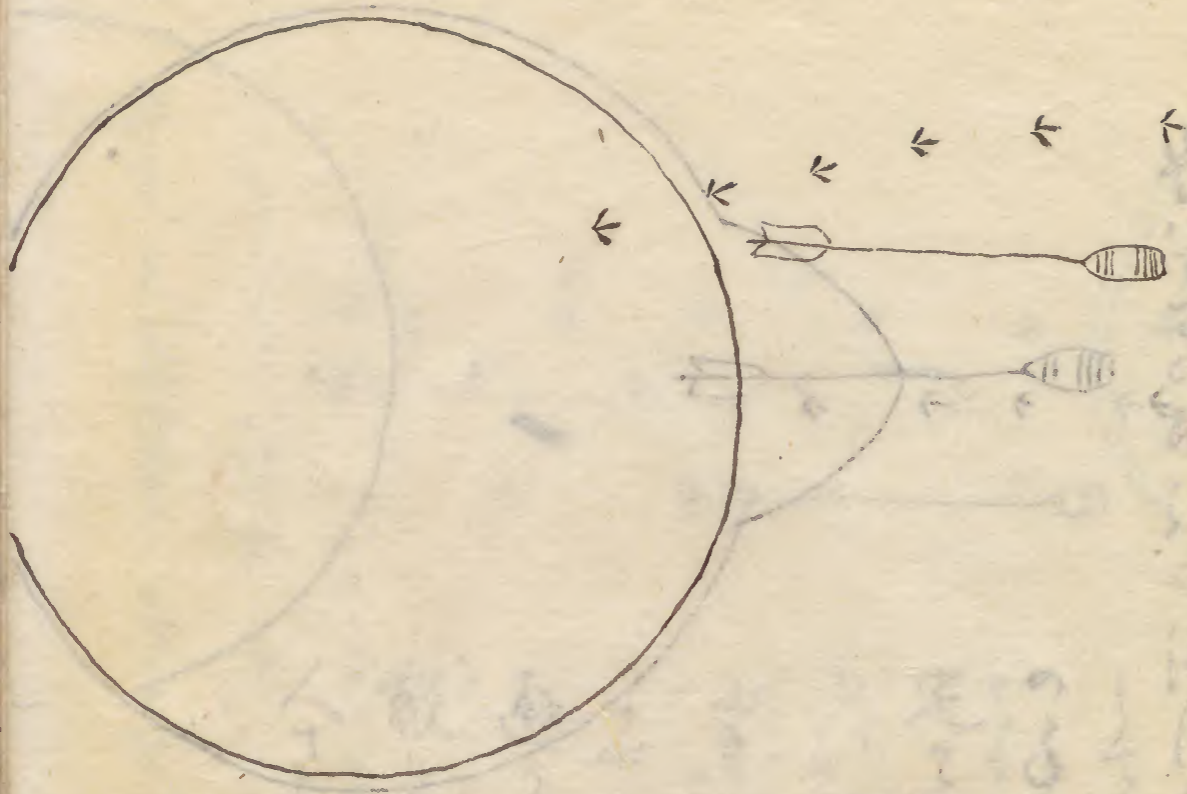


是ハ之矢ノ二五下の矢を
 考へたる人モ高直ク
 おのてハ矢を考へず
 考へたる人モ高直ク
 考へたる人モ高直ク
 考へたる人モ高直ク



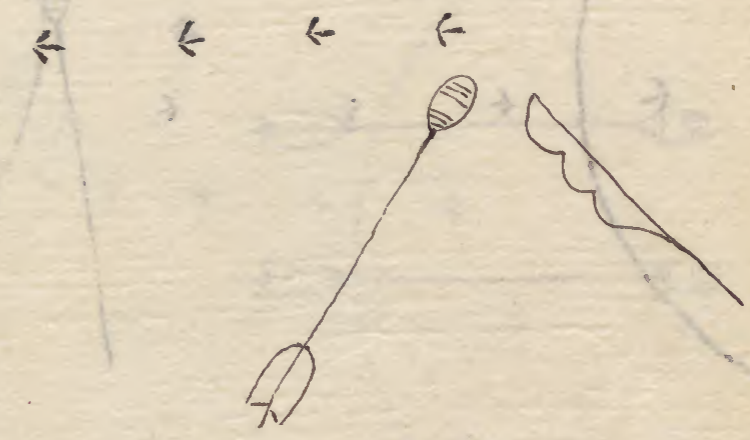
是は舟の形を以て其の天に如く
 能く流るるを以て舟と云ふ
 然るに舟の形を以て其の天に如く
 能く流るるを以て舟と云ふ
 是は舟の形を以て其の天に如く
 能く流るるを以て舟と云ふ
 是は舟の形を以て其の天に如く
 能く流るるを以て舟と云ふ

是ハまゝの形を以て其の天に如く
 能く流るるを以て舟と云ふ
 是ハまゝの形を以て其の天に如く
 能く流るるを以て舟と云ふ
 是ハまゝの形を以て其の天に如く
 能く流るるを以て舟と云ふ
 是ハまゝの形を以て其の天に如く
 能く流るるを以て舟と云ふ

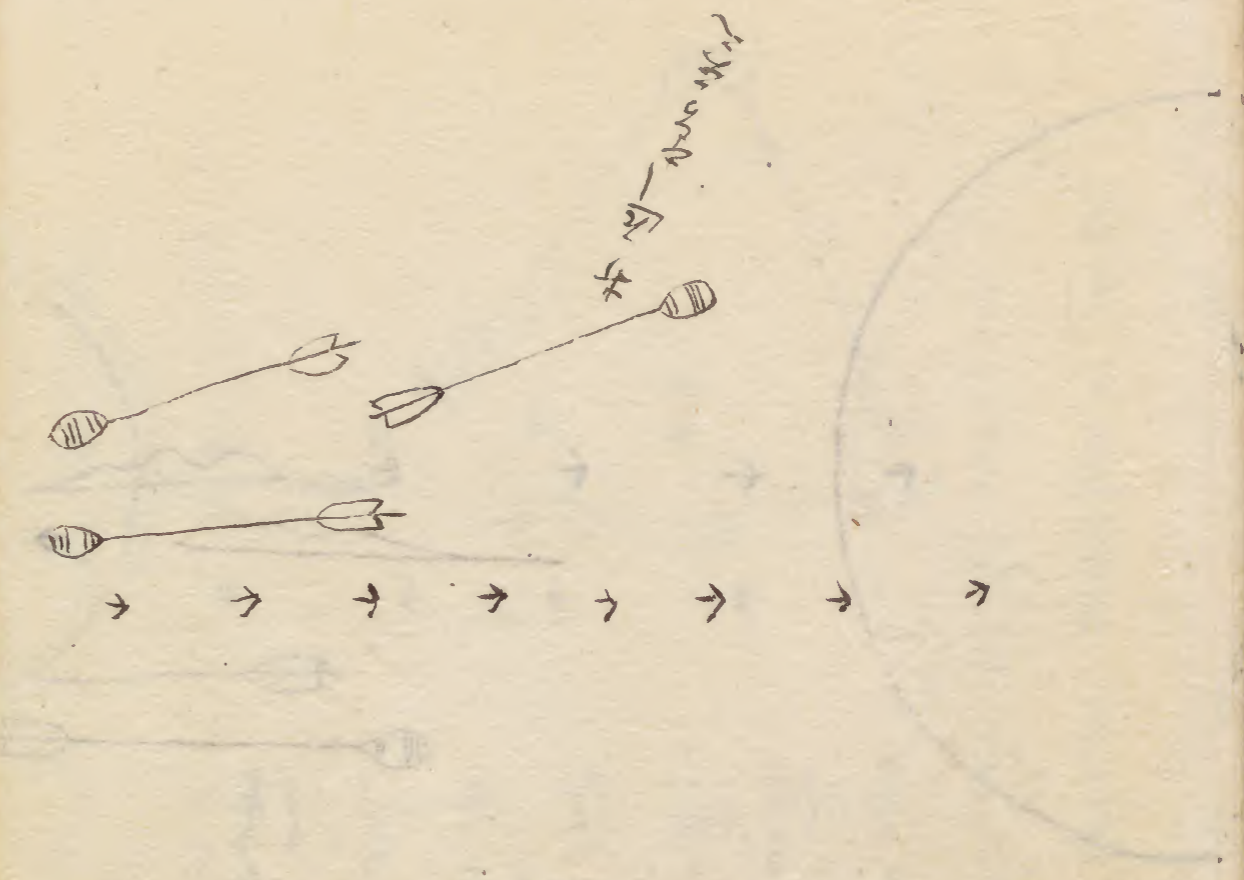


此の如く矢を射るに
 矢の尾を引くは
 矢の頭を引くより
 矢の尾を引くは
 矢の頭を引くより
 矢の尾を引くは
 矢の頭を引くより

のこの中^述すは矢を射るに
 矢の尾を引くは
 矢の頭を引くより
 矢の尾を引くは
 矢の頭を引くより
 矢の尾を引くは
 矢の頭を引くより

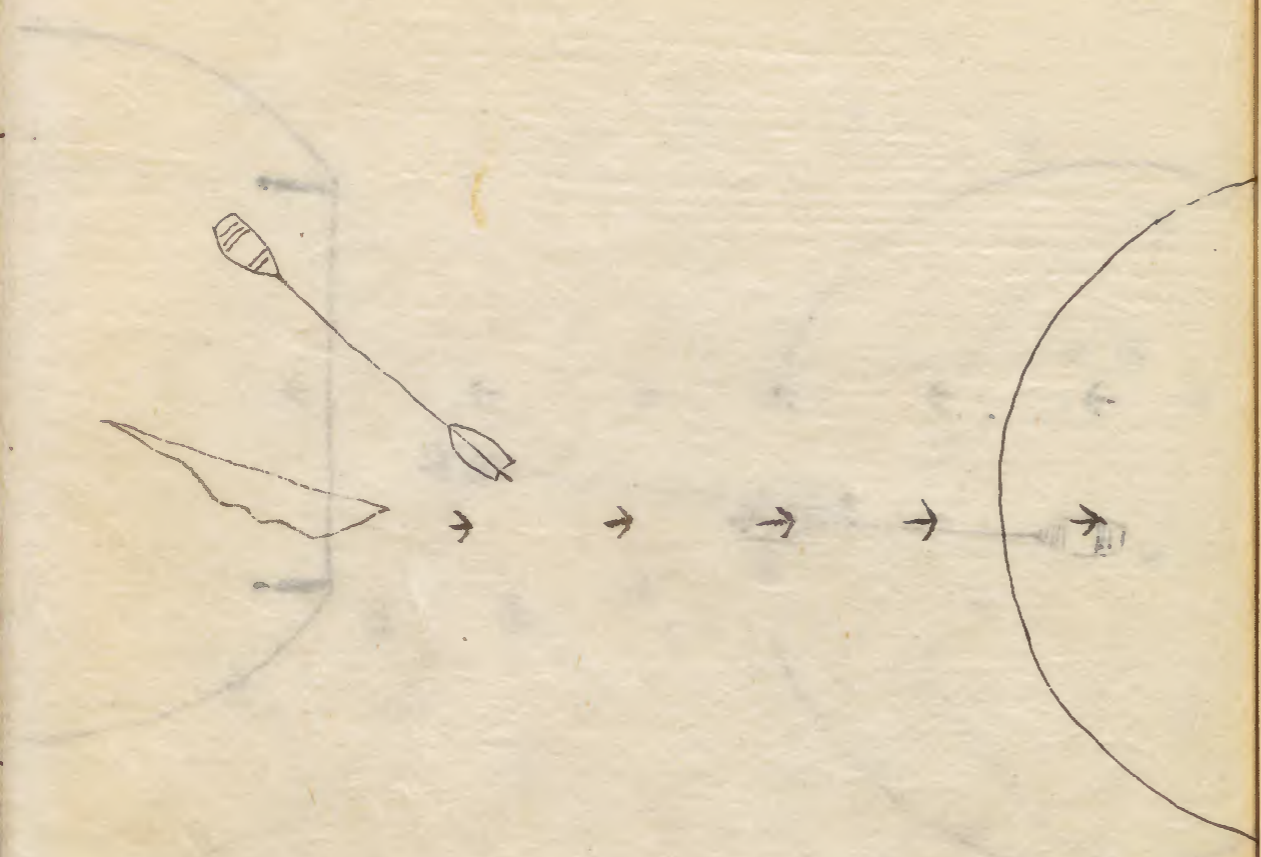


はさああいの矢を射るに
 矢の尾を引くは
 矢の頭を引くより
 矢の尾を引くは
 矢の頭を引くより
 矢の尾を引くは
 矢の頭を引くより



是ハ流道の羽引
 是を始はる時ハ
 是羽引の矢の必
 ずくを立て倒成
 の羽引のこく羽
 せしめぬ能くハ
 是もはひくは
 くるを立て取
 のらへーお引の矢
 ありぬかのこく
 二つの矢を流道
 ともて横たせ

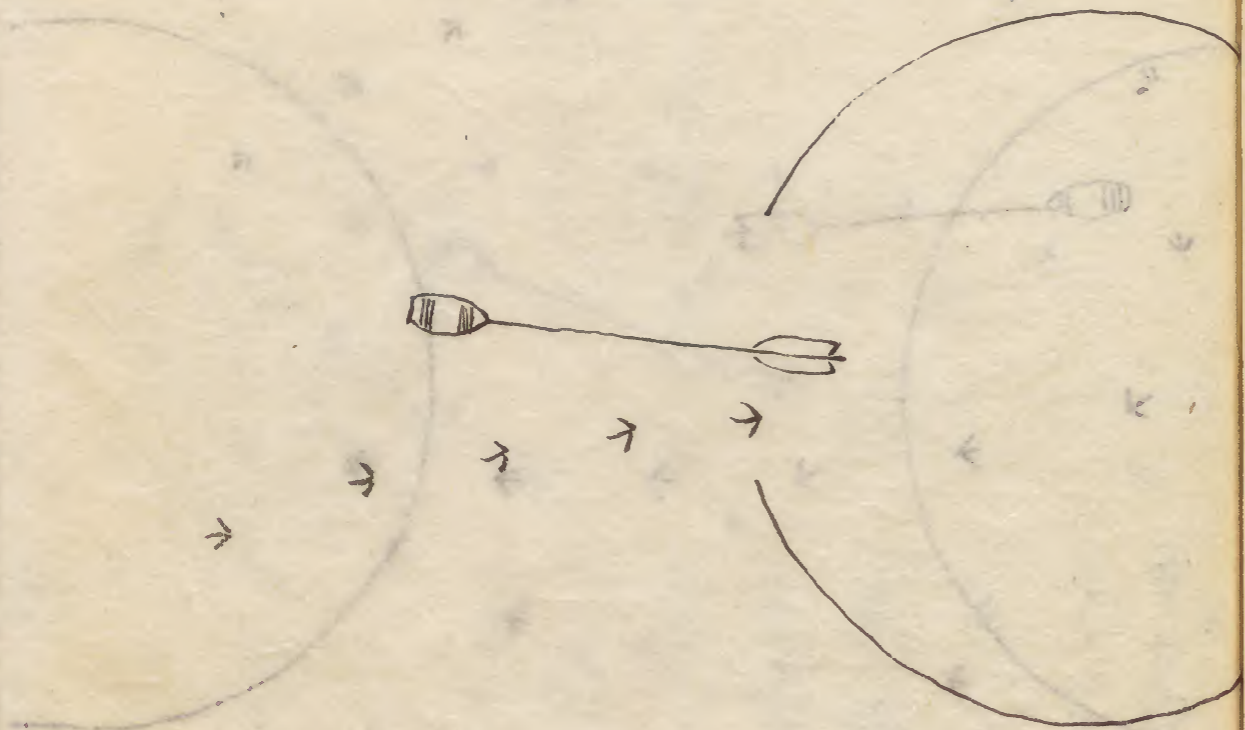
おもく羽引の矢流ふ
 るは流の矢を
 羽引の十字の
 羽引



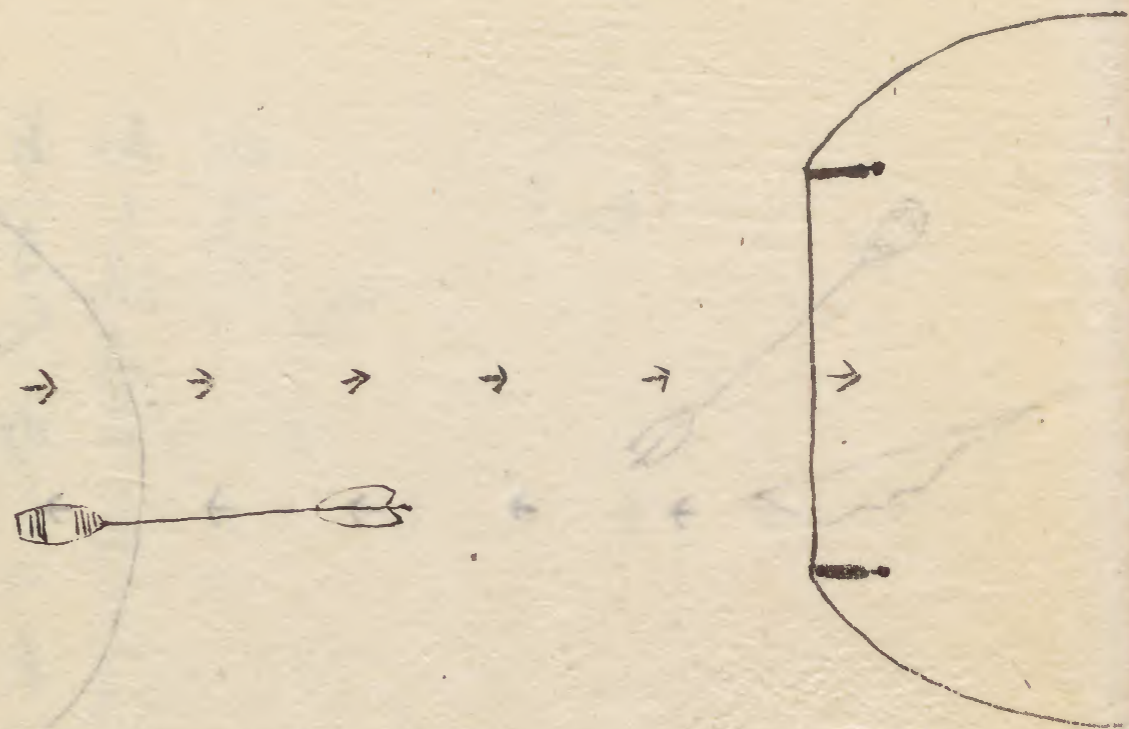
是ハまろひ疏の羽引之由
 鳥をさ通くより先へ例
 式すハさく法を引てお
 括意をあらわさふ意れを
 是時らを人少とてあて
 例或の羽引のこくはたす

鳥の羽引の由
 鳥の羽引の由
 鳥の羽引の由

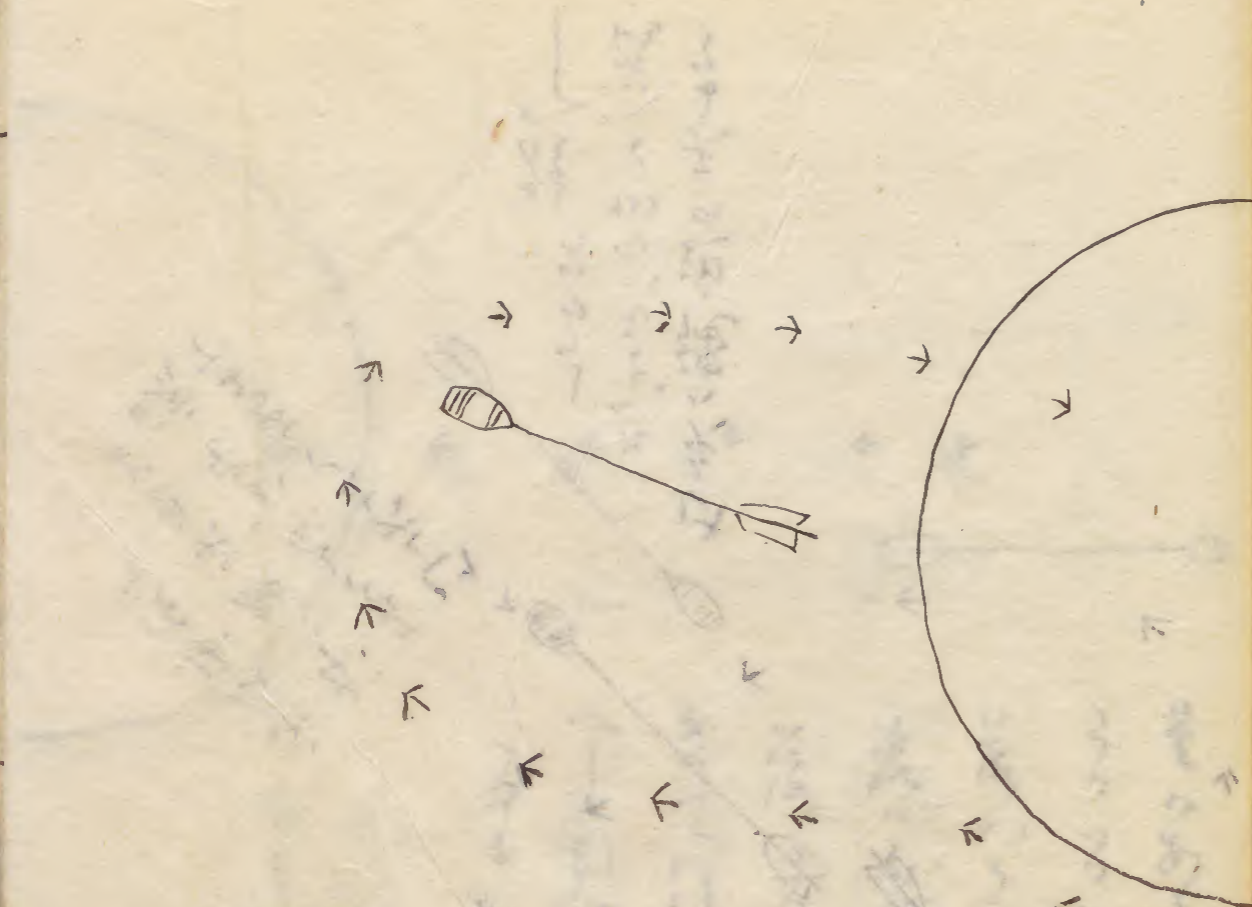
鳥の羽引の由
 鳥の羽引の由
 鳥の羽引の由
 鳥の羽引の由
 鳥の羽引の由
 鳥の羽引の由
 鳥の羽引の由
 鳥の羽引の由
 鳥の羽引の由
 鳥の羽引の由



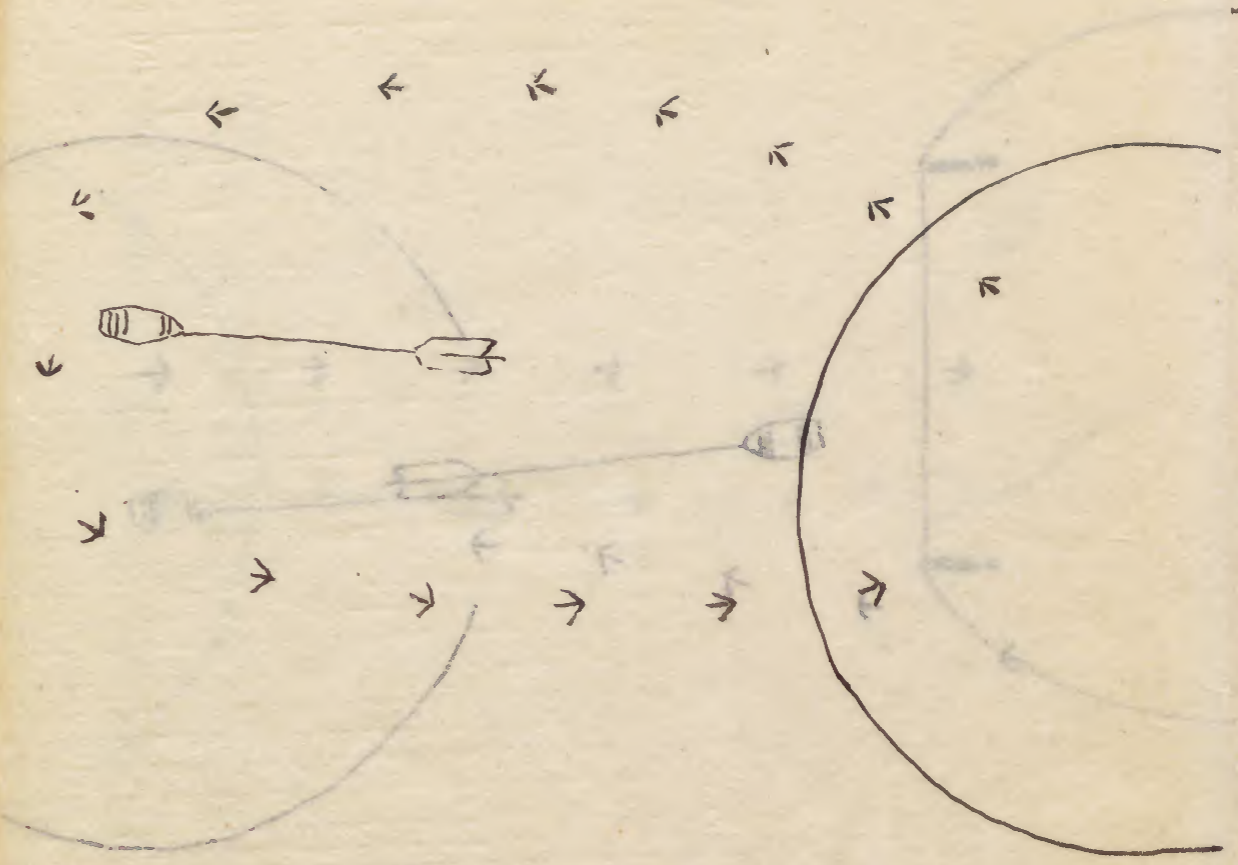
此の矢の筋線より切らぬ
 矢の筋線より引けはきく
 矢の筋線より引けはきく



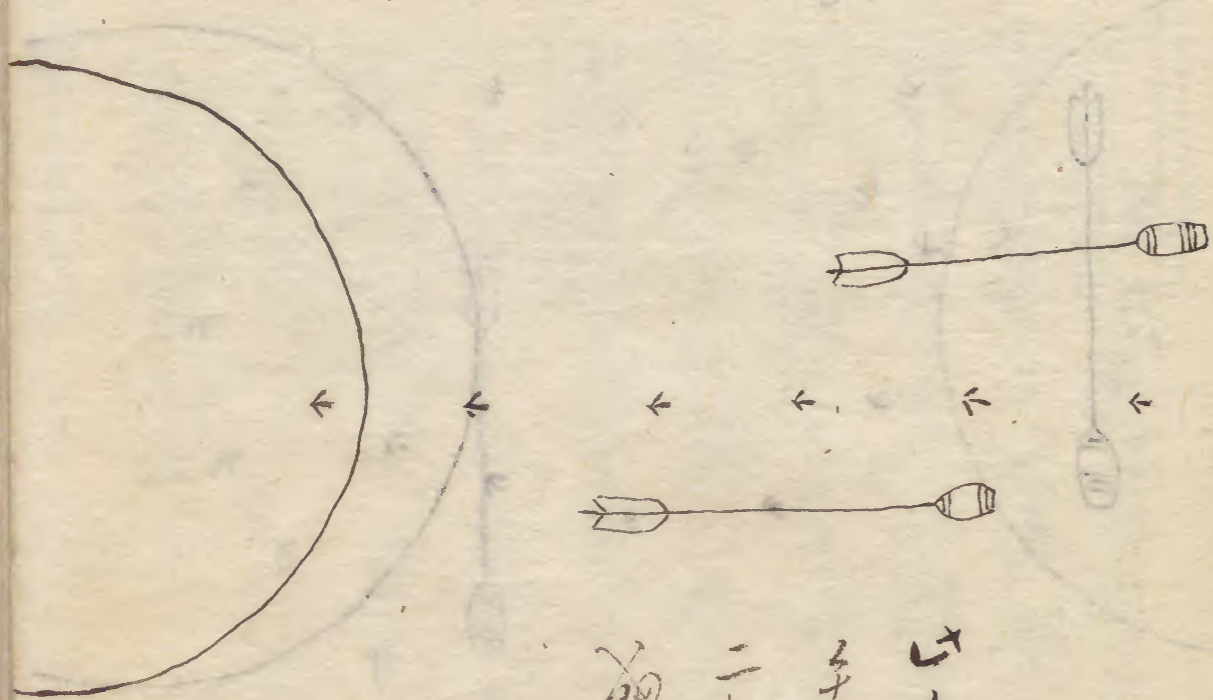
是ハ繩トナスル矢之
 繩の切のり筋線より引
 ききくこの筋を引
 てを振点よりききく
 筋線より引けはきく



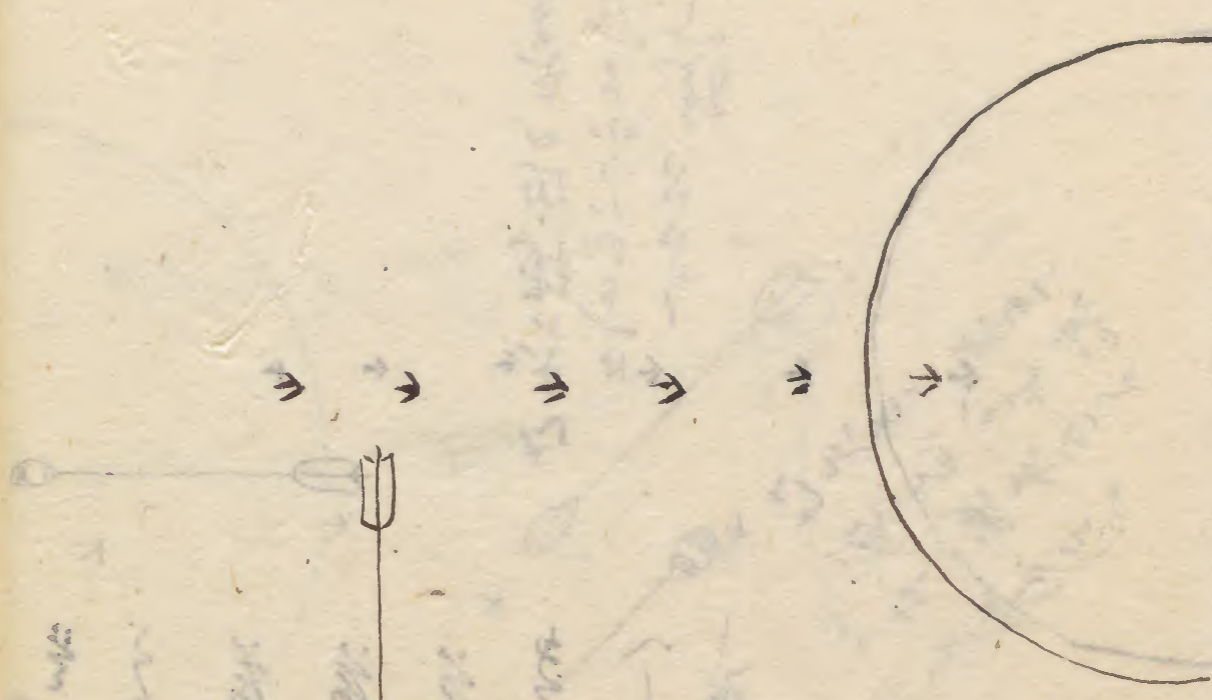
是ハハ諸矢の振動ハ
 諸海をさすく通る也の
 ありき 諸海をさすく
 是ハ海の内へさすく入
 り 諸矢ありき 振動



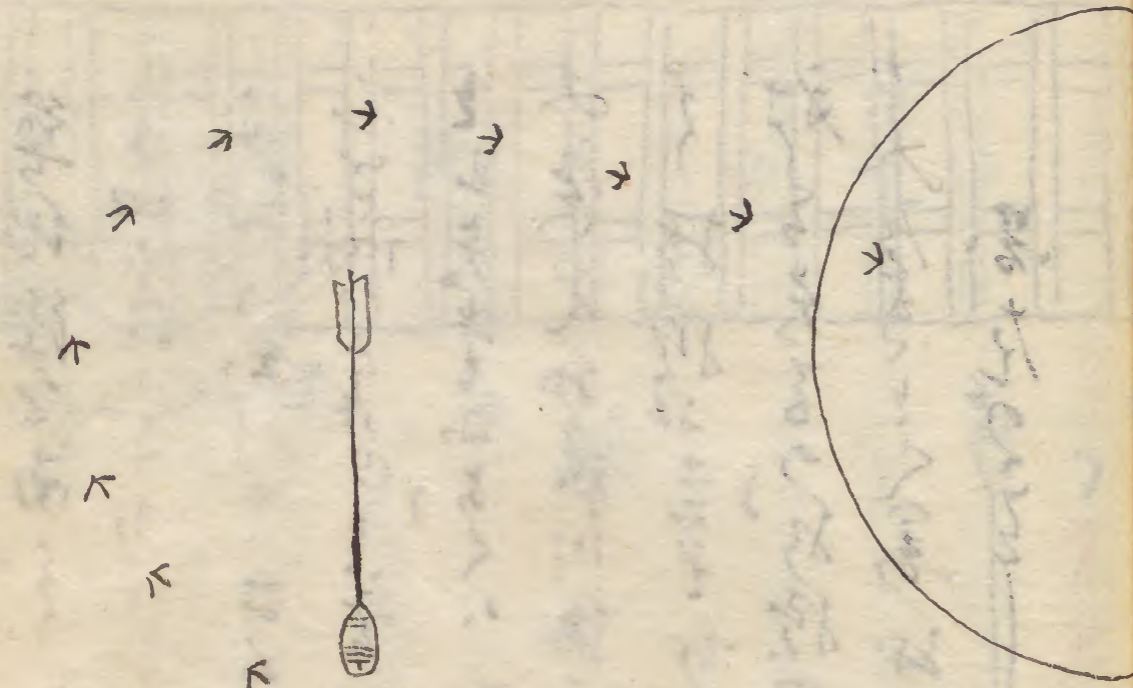
是ハ諸矢の振動ハ
 諸海をさすく通る也の
 ありき 諸海をさすく
 是ハ海の内へさすく入
 り 諸矢ありき 振動



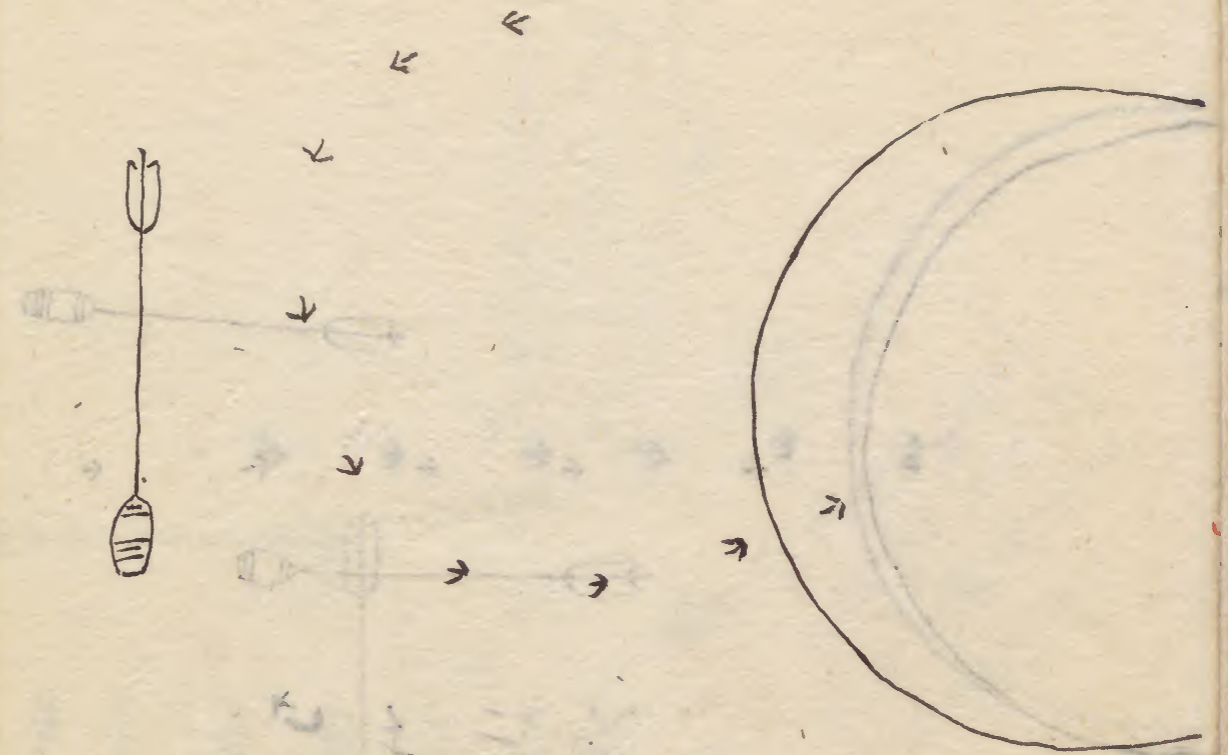
此矢は弓の矢と異なり二重と云
 矢と云ふは一と云ふと云ふに矢と
 二重と云ふは二重と云ふに矢と
 射るるの矢と云ふに



此矢は弓の矢と異なり二重と云
 矢と云ふは一と云ふと云ふに矢と
 二重と云ふは二重と云ふに矢と
 射るるの矢と云ふに



昔ハ...
 カノ...
 ...
 ...



...
 ...
 ...
 ...

一 矢少佐のこころ

きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん

きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん
きよと殺すらんふらまじし 徳をよこしてきつらん

右の心に強きつゝもいふせふもなきまゝに
先づおぼせしに水の時にかうかいと云ふ
十文字あまうにち枝近りに徳をのけし
ちのまゝとひらけつゝを後みちのり
右矢のゆたや大形赤にまゝに
矢ははれし

矢ははれし

一 換はる云はれ
能多る時射
おはあまう
すまう
ち村の射
能多の射
すておは
うらむ
のあま
まは
換はる
たう
うらむ
のあま
まは

一 換はる云はれ
能多る時射
おはあまう
すまう
ち村の射
能多の射
すておは
うらむ
のあま
まは
換はる
たう
うらむ
のあま
まは

一 換はる云はれ
能多る時射
おはあまう
すまう
ち村の射
能多の射
すておは
うらむ
のあま
まは
換はる
たう
うらむ
のあま
まは

一 換はる云はれ
能多る時射
おはあまう
すまう
ち村の射
能多の射
すておは
うらむ
のあま
まは
換はる
たう
うらむ
のあま
まは

おの心とおはるゝ云はるゝと云ふ
おの心とおはるゝ云はるゝと云ふ
おの心とおはるゝ云はるゝと云ふ
おの心とおはるゝ云はるゝと云ふ
おの心とおはるゝ云はるゝと云ふ
おの心とおはるゝ云はるゝと云ふ
おの心とおはるゝ云はるゝと云ふ
おの心とおはるゝ云はるゝと云ふ
おの心とおはるゝ云はるゝと云ふ
おの心とおはるゝ云はるゝと云ふ

その形もよく校書の形をとり、
比時出たかといふ事ありて
其の形もよく校書の形をとり、
比時出たかといふ事ありて
其の形もよく校書の形をとり、
比時出たかといふ事ありて
其の形もよく校書の形をとり、
比時出たかといふ事ありて
其の形もよく校書の形をとり、
比時出たかといふ事ありて
其の形もよく校書の形をとり、
比時出たかといふ事ありて

一 校見も云内外の換之の事
一 目録に如お射子路をとり
一 口絶付を後なるなりて
一 如お射之漢をとりて
一 如お射之漢をとりて
一 如お射之漢をとりて
一 如お射之漢をとりて
一 如お射之漢をとりて
一 如お射之漢をとりて
一 如お射之漢をとりて
一 如お射之漢をとりて

田よりやハ里名云々又田の指入貴人ハ水川殿を
 此つらやおあつてやん又外ハ矢野多き時ハ此
 矢野より此ハ外の指入建候ハおあつておの矢を
 此らも一トハ田の指入云々
 又云外の指入討候と云候云ハつらと云ハ討候
 先之を記候云々云々云々ハ是時ハ此指入を
 又云田外の指入の時止つハ此ハ一ハ田外をせり
 事あり是れもハ此指入のハ乃云々云々
 又云すてり云云ハ外ハ一ハ内ハの指入の時
 内指入ハ指入と云云ハありハ一ハ此ハ外の指入
 ハ外ハ云ふようハ指入ハ一ハ此ハ云々云々ハ可
 也

- 一 夫指入云内ハ指入ハ初ハ正考者ハハ艦動候からハ
- 一 此つらハ御つら云々云々候ハ一ハ此ハ云々云々
- 一 又云漢次ハ外ハの指入ハ内ハの指入ハ此ハ一
- 一 前ハ此ハ云々云々云々ハ一ハ此ハ云々云々
- 一 又云外ハの指入漢次建の方ハ一ハ此ハ云々云々
- 一 候ハ外の方ハ一ハ此ハ云々云々ハ一ハ此ハ云々云々
- 一 此ハ云々云々云々ハ一ハ此ハ云々云々ハ一ハ此ハ云々云々
- 一 稀云々
- 一 又云外ハの指入此ハ一ハ此ハ云々云々ハ一ハ此ハ云々云々
- 一 又云外ハの指入此ハ一ハ此ハ云々云々ハ一ハ此ハ云々云々
- 一 又云外ハの指入此ハ一ハ此ハ云々云々ハ一ハ此ハ云々云々

一 又云射子指之の時紐のより射子の時おひめあたるしるはば
ときて志きよむまひてまらん

一 又云射子指之の時矢代ふりて口他は書書時に園迄きん
と書こ一やゆつ指之の人を指之のふまけくあり又書

一 穀の人あふならんめらもあふち書穀の人を指之の
ふよてちんちルン射子ら指之とてふまひさうの名をま

ちりあり

一 又云射子指之の時十やゆの矢代ふり十やゆのりやまら
く十一十二の矢代の人にせぬちり

一 又云射子指之の時拾ふに拾ころ字をしかつるにけちん
枝葉のふれりて矢代さふる時八枝をたのけまらり

一 主初らん引目徳のさへ拾一拾枝をた矢とのりち枝
ニ枝斗拾一拾

指之と喫次打書事

一 又云指之と喫次と十近のお登り拾は法をさるる
みこしけハ十近のきり喫てむちを繰まきりて

一 打のけ一喫次に縄のまじ目くおるうて射子の指
ひさす指射子指ひしる時穀をぬきて縄の内へお入

一 て大せんと分す一お喫次のあつりよか拾たなを
ては指之はとあとおて射子匠をさるるふ若例

一 或の喫次と一を指す

考らるはそく外をもつ事

一 志の鏡まききりてハ人を指て射子名をけらるん
せり是れ拾おろし喫せりてやんおのせと云ん矢

考らるはそく
考らるはそく

あふおふと斗ふは時に射はれぬ字を途で能き
しつゝさうく漢へ一殺を添ふさうして射よとあ連
るべし

一 又云二子三子の女は接をもちあふさうに
然るべきにさうく漢へ射よとさうして一殺をさうして
さうして射へておへさへ一又さうして押通してはさ
の時に殺さうして一殺の遠目まで射よと添ふさうして
さうしてさうしてさうしてさへ一
接古も云接史はさうして引目をあふさうして一殺を右のう
でよめさうして陰陽のの縄を射よの後にさうして
入るさうして

一 又云伊新様は又射よと射の時に接はれぬ
沙法はさうして接史はさうして漢はさうして

一 漢はさうして方接史はさうして射よと射の時に接はれぬ
沙法はさうして接史はさうして漢はさうして

一 又云接史はさうして漢はさうして止家おさうして沙法はさうして
さうしてさうしてさうして漢へ殺を添ふさうしておのけへ

一 漢はさうして縄の遠目へおへさうして射よの接ひをさうして射よ
接ひの射殺をぬきさうして縄のゆへおへさうしてさうして

一 お漢はさうしてさうしてさうしてさうしてさうして漢はさうして
射よと射よとさうしてさうして漢はさうして漢はさうして

一 又云矢の時に接史は漢はさうして漢はさうして漢はさうして
さうしてさうしてさうして漢はさうして漢はさうして

一 又云接史は初止放をさうして犬放をさうしてさうして

なほそ程古あゝの程ふささうのやとを素直く
又そのふおや対する人夫人あつては是れ非せざるを
おき平人おや対して控さるゝと不義交む控へ
續き夫人の是非あるはさうの程もおやと云ふ
お対するふらつて際迄ささあつて控さるおやを
放棄し他程委五務之務をおや追つて時分を
仕立て対させしと時能夫あゝおよぶと云て
るを池考ておよなきと詞さうけておよと云て
いつか際迄ささあつて云て出立し
換足云主人夫人の御徳を換足とする時分を
むくもおんを去共なきはと云はれぬと云ふ
此の當の入りお作し能くお換足は此の當の當を
矢出しと云お作しと云はれぬと云ふは此の時分
を考てさうと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
へと換足する人あゝと云はれぬと云ふは此の時分
人の御徳と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
お云はれぬと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
さうしのお出の時分と云ふと云ふと云ふと云ふ
対するおん

又云換足の心は教多きと云ふと云ふと云ふと云ふ
大いふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
さうと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
さいつまうと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
るもそおんの時分と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

撰宗云六百五十七
 後藤云四百七十七
 けはしりの四百七十七
 多しゆぬ
 おろし敷を
 けしり敷を
 はしり敷を

大と枚をすす一か一か誇れり之誇れりあふけハ村手
 におけりてふをせしめけり心や高はめておけり志
 とくところをあらふ一村子と日給子馳回す
 心やろろきておけり必多やれ其後すくは條の
 是之候云上の秘録に

又云序破急と云ふりまふ止斗漢と云ふ

いせをわりのと例式のこころをすす一は序之
 又序斗漢と云ふけり七斗漢と云ふはあひせり少
 ありてふのやせりしりくと云ふ一は破之又
 七斗漢と云ふけり七斗漢と云ふはあひせり少
 大あひせりとのやせりしりくと云ふ一は破之又
 一は急をせりて漢と云ふけり七斗漢と云ふはあひせり少

漢と云ふは急をせりて漢と云ふけり七斗漢と云ふはあひせり少
 他ともいふを急をせりて漢と云ふけり七斗漢と云ふはあひせり少
 是もいふを急をせりて漢と云ふけり七斗漢と云ふはあひせり少
 といふを急をせりて漢と云ふけり七斗漢と云ふはあひせり少
 是もいふを急をせりて漢と云ふけり七斗漢と云ふはあひせり少
 是もいふを急をせりて漢と云ふけり七斗漢と云ふはあひせり少

右の外推定のつらき事附子の部にもあり

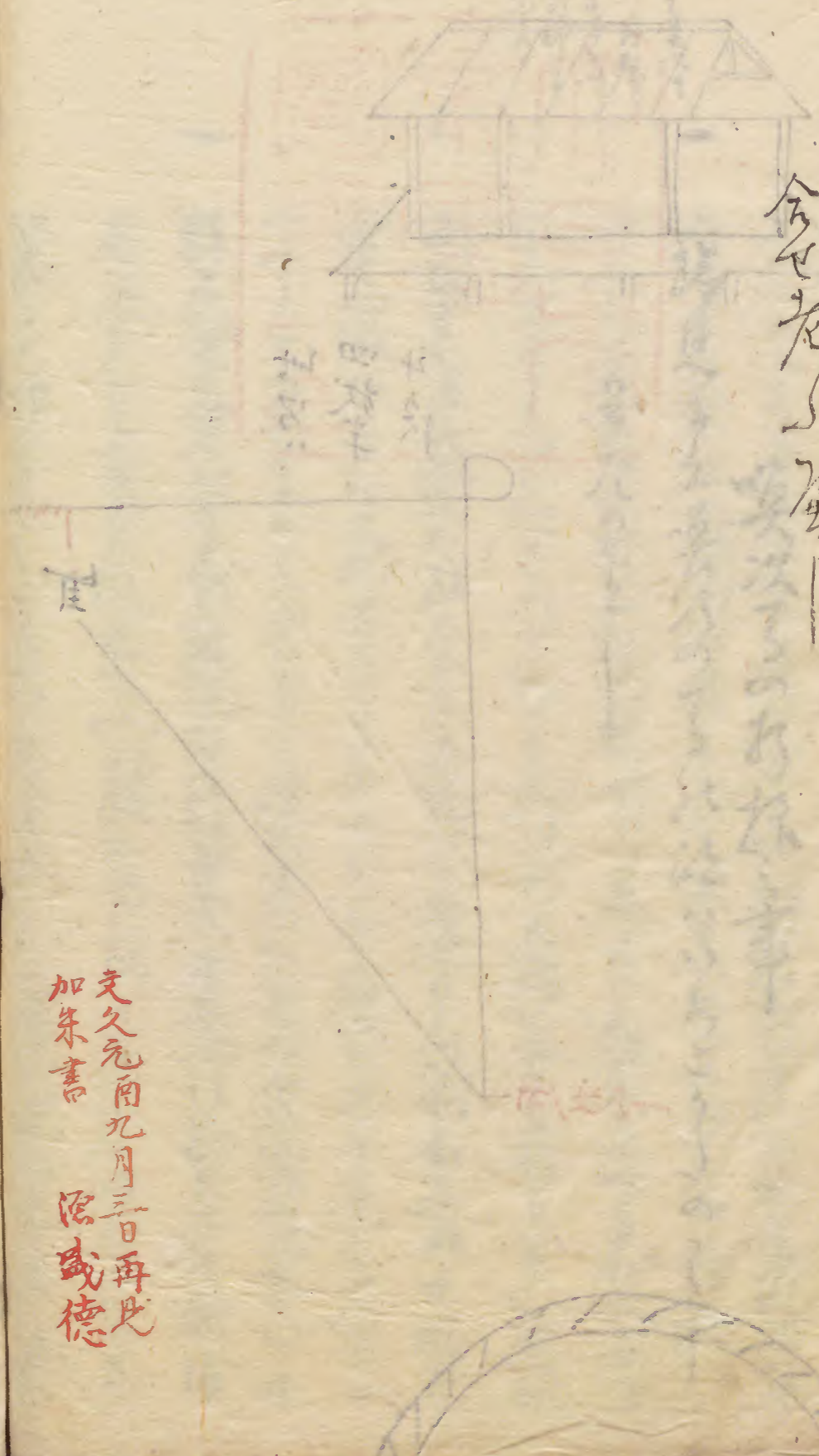
今略す

○嘆之部

馬場お入籠り奇其外をこ之事

撰史云漢次のち撰りておけりて出へて撰りて漢の
 遠目におけりて漢次は撰りておけりて漢の遠目の方子

右の外喚所の芝居の部
合をたふす



文久元年九月三日再此
加朱書 徳盛徳

嘉永元年八月

吉良侯節守静

為

